

TFU

No. **93**

平成 30 年 10 月 23 日発行

発行所 東北福祉大学

発行者 大谷 哲夫

〒981-8522 仙台市青葉区国見 1 丁目 8 の 1

TEL (022) 233-3111

<https://www.tfu.ac.jp>

Newsletter

東北福祉大学通信

CONTENTS

CAMPUS TOPICS

国内初の大学ライオンズクラブ発足

リハビリテーション学科開設 10 周年

CAMPUS NEWS

自治体はじめ各種協定締結

ACTIVITY REPORT

東日本大震災追悼行事に多数の学生参加

INFORMATION



「日本一の社会貢献型大学へ」認証伝達式に200人

東北福祉大学ライオンズクラブ誕生



東北福祉大学ライオンズクラブの旗を手にする大谷学長。右上は認証状を持った大谷学長と山田氏

スローガンは「あたりまえを、超えていく。2018 We serve」

東北福祉大学は5月19日、国内初のキャンパスライオンズクラブとなる「東北福祉大学ライオンズクラブ」をスタートさせました。

ライオンズクラブは世界的奉仕組織で、本学ではそのユース版といえる学生中心の団体「東北福祉大学レオクラブ」が2016年6月に宮城県内の大学では初めて発足し、すでにさまざまな奉仕活動を展開しています。

「東北福祉大学ライオンズクラブ」は、大学で組織される教職員を中心に50人のメンバーで構成され、1月に結成。19日は国見キャンパスやきホールで認証状伝達式が行われ、晴れてライオンズクラブとして認証を受け、活動を開始することになりました。

約200人が出席した式典では、東北福祉大学ライオンズ

クラブ会長を務める大谷哲夫学長が開会のゴングを鳴らし、御礼の言葉とともに「さまざまな奉仕活動を通して、日本一の社会貢献型大学を標榜できるライオンズクラブを築いてまいることが固くお誓いします」と宣言しました。

また、ライオンズクラブ国際協会元国際会長の山田實紘氏からは「ライオンズクラブは210カ国、45、000のクラブがごいますが、その中でキャンパスクラブは439しかありません。日本には皆無でしたが、つくっていただき感謝を申し上げます。レオクラブと同時に動くことで、今後の日本の、福祉の鑑になるのではないかと思います」とお祝いの言葉をいただきました。

認証状伝達ののち、副幹事の草間吉夫特任教授がクラブのスローガンを発表、「あたりまえを、超えていく。2018 We serve」と決定しました。今後は献血活動や地域貢献活動など本学ならではの特色ある活動を行っていく方向です。

卒業生ら約300人参加、学科同窓会も発足

2008年に設置された健康科学部リハビリテーション学科の開設10周年記念式典・祝賀会が4月28日、音楽堂けやきホール並びに学生食堂「風土」で開催されました。卒業生をはじめ現役学生、教職員、来賓を含め、約300人が参加し、熱気に包まれました。

保健・医療・福祉分野に貢献する人材として、作業療法士（OT）と理学療法士（PT）の両専攻（ともに定員40人）を設け、人材育成を図って早10



祝辞を述べる大谷学長

年が経過しました。両専攻の卒業生は2018年3月末までにOTが274人、PTが272人と合計546人を数え、各人が臨床の場など、さまざまな場で活躍しています。

記念式典の司会は同学科の小野治子准教授が務めました。大谷哲夫学長は開口一番、「これまで多くの人材を輩出して来た。本学の建学の精神『行学一如』は学びと実践は一つということであり、リハビリテーションがまさにそう。今後とも良き伝統を築いていただくことを期待している」と祝辞を述べました。

さらに健康科学部の学部長でもある樋渡正夫学科長が「長期間にわたる実習、指導をいただいた先生方に感謝している。患者さんは自分で病気になったわけではなく、もし逆の立場であったらどう思うか。優しさが必要であり、和の心と優しさをぜひ身に付けてほしい」と謝意と心構えを話しました。

宮城県作業療法士会と同理学療法士会会長からの祝辞披露に続き、来賓と

学内役職者が紹介され、健康科学部前学部長の松江克彦氏、リハビリテーション学科の前学科長・鈴木堅二氏に大谷学長から感謝状が贈呈されました。

特別講演は一般社団法人 日本作業療法士協会の中村春基会長が「求めら



祝賀会に参加した大勢の方々

れるリハビリテーションの未来像」をテーマに話しました。少子高齢化、社会保障費の増加など社会情勢の変化から、期待されるリハビリテーション像、作業療法士として43年目を迎えた自身の経験を通して、ぶれない思いと体験談が熱く語られました。

式典後、風土で祝賀会が催されました。乾杯の音頭を取った大竹榮副学長が「ブランド力向上を目指し、皆様方のこれからの活躍を祈念する」と挨拶を述べました。1期生から3月に卒業したばかりの7期生や教職員、来賓を含め約70人が参加。あちこちで話に花が咲き、親睦を深めていました。

なお、記念式典・祝賀会に先立ち、リハビリテーション学科の同窓会発足式が行われ、同窓会規約を拍手で承認。1期生から晴れて会長、副会長が選任されました。

CAMPUS NEWS 1

3者間連携協定締結

本学、栗原市、
 東北大学学術資源
 研究公開センター

東北福祉大学と東北大学学術資源研究公開センター、宮城県栗原市が3月14日、栗原市役所で、3者間による連携協定締結式に臨みました。

包括的連携協定は「人的・物的資源の活用により連携協力し、地域の発展と人材の育成を図ること」を目的にします。有効期間はこの日から平成31年3月31日までで、更新も可能です。

締結式には栗原市から千葉健司市長、佐藤新一教育長ら、東北大学学術資源研究公開センターから西弘嗣教授ら、本学から大谷哲夫学長、大竹榮副学長らが出席。大谷学長は「人材養成に役立てたい」と述べました。

本学は栗駒山麓荒砥沢ダムの麓にある自然豊かな温泉宿「さくらの湯」を拠点に、防災・減災、エネルギー、環境学習などに活用する計画で準備を進めています。



左から西教授、大谷学長、千葉市長

山形市と協定を結ぶ

山形県内自治体とは初めて

東北福祉大学は「山形市との地域福祉推進に関する協定」を4月27日、山形市役所で締結しました。山形県内の自治体と協定を結ぶのは今回が初めてです。

本学からは大谷哲夫学長、福祉行政学科の都築光一教授、社会貢献・地域連携センターの草間吉夫事務局長が、山形市からは佐藤孝弘市長、福祉推進部の小野徹部長、同部生活福祉課の武田吉浩次長兼課長が出席しました。

協定の目的は「相互に連携を図り、山形市の地域共生社会の実現に資する」ことで、内容は①山形市地域包括ケアの構築に向けた支援体制の整備②山形市の地域福祉計画の推進③災害時の福祉支援④地域福祉を担う人材育成など。期間は2019年3月末までで、その後は1年ずつ更新されます。



大谷学長（左）と佐藤市長

仙台市とは消防協定

市が初めて大学と結ぶ

東北福祉大学と仙台市は7月12日、仙台市役所で、「地域消防力の向上等に関する協定」を締結しました。

2015年度に救急救命士課程を設けた本学は、市内の大学で唯一の養成校になります。仙台市消防局とはこれまでも防災や避難訓練などを通じて、緊密な連携を図ってきました。

今回の協定は「人的・物的資源の活用により相互に連携協力し、地域における消防力向上と人材の育成等を図ること」を目的にしています。

締結式には仙台市から郡和子市長、中塚正志消防局長ら、本学から大谷哲夫学長、大竹榮副学長らが出席。郡市長は「本協定が若い力により地域の消防力向上に資することを祈念する」と述べました。消防業務で大学との協定締結は仙台市では初めてです。



仙台市と本学スタッフ

CAMPUS NEWS 2

利府町と連携協定

本学が町の活性化を支援

東北福祉大学は、宮城県ほぼ中央部に位置する利府町と7月26日、利府町民交流館内で「連携協力に関する協定」を締結しました。協定は利府町総合計画の実現に向け「学生の柔軟なアイデアを生かした効果的な事業推進を図ること及び大学の教育資源を提供することにより、相互の事業効果を高めること」が目的です。

締結式には利府町から熊谷大町長、櫻井正人町議会議員、折笠浩幸総務課長ら、本学から大谷学長、大竹榮副学長、山口政人地域共創推進室長らが出席しました。

熊谷大町長は「効果的な事業推進を図りたい」と述べ、大谷学長は「提携を基に本学の知見を役立ててもらい、町の活性化に貢献していきたい」と、両者とも期待を込めて語りました。



大谷学長（左）と熊谷町長

多賀城高校と協定を結ぶ

宮城県内の高校で初めて

宮城県教育委員会と包括連携協定を結ぶ東北福祉大学は5月29日、本学で宮城県多賀城高等学校と「包括連携協力に関する協定」と「高大連携・接続に関する覚書」を締結しました。宮城県教育委員会との包括連携協定に基づく宮城県高等学校との協定は、多賀城高等学校が初めてです。本学からは大谷哲夫学長、大竹榮副学長、渡部純夫入学センター長をはじめ、入学、教務部門の担当教職員が、多賀城高校からは佐々木克敬校長、菊田英孝教頭、原田実主幹教諭が出席しました。

協定の目的は「学術研究及び学校教育の振興並びに地域社会の発展と人材育成に寄与すること」で、覚書は「互いの教育の活性化に加え、高校と大学との学習の継続性を意識した入学者の選考についての研究を行う」ことです。



佐々木校長（左）に記念品を贈る

登米総合産業高校と協定

多賀城高に次ぐ2校目

宮城県教育委員会と包括連携協定を結ぶ東北福祉大学は9月11日、本学で宮城県登米総合産業高等学校と「包括連携協力に関する協定」と「高大連携・接続に関する覚書」を締結しました。宮城県教育委員会との包括連携協定に基づく宮城県高等学校との協定は、多賀城高等学校に次いで2校目です。

本学からは大谷哲夫学長、大竹榮副学長らが、登米総合産業高校からは大内栄幸校長、大竹博行教頭、吉田勇喜連携部長らが出席しました。

協定の目的は「学術研究及び学校教育の振興並びに地域社会の発展と人材育成に寄与すること」です。

大谷学長は「実のある協定になるよう力を尽くしたい」と語り、大内校長は「パートナーが増え、より充実した教育関係を築きたい」と抱負を述べました。



大内校長と大谷学長（右）

CAMPUS NEWS 3

仙台水産と協定締結

共に東北振興をめざす

東北福祉大学と株式会社仙台水産は7月26日、本学管理棟の第1会議室で、「東北振興・人材育成に関する包括的連携協定」を締結しました。

協定は東北振興をめざすために「人的・物的資源の活用により地域創生、人材育成に連携協力して取り組む」ことを目的としています。

具体的には①東北の水産業の成長産業化②東北の水産業の担い手づくり③東北の復興支援などがあります。

締結式には仙台水産から島貫文好代表取締役会長、熊谷純智代表取締役社長、石森克文専務取締役管理本部長ら、本学から大谷哲夫学長、大竹榮副学長、鈴木康夫総合マネジメント学部長らが出席しました。

大学と初の協定を結んだ島貫会長は「社会に貢献したい。学生の教育に有効な形で還元したい」と抱負を語りました。



大谷学長と島貫会長（左）

スロヴェニア記念館に学食「さくら」がオープン

9月10日、国見ヶ丘第1キャンパスのスロヴェニア記念館に学食「さくら」がオープンしました。

座席は30席で営業時間は月曜日から金曜日の11:00～14:00（休業は土日・祝日、その他大学の休日）。メニューは日替わり定食やうどん、そば、カレーなどで、すべて500円以内とお手頃な価格になっています。学生、教職員だけでなく、一般の方もご利用可能です。皆様のご利用をお待ちしています。

所在地＝仙台市青葉区国見ヶ丘6丁目 スロヴェニア記念館

※学生の方はシャトルバスご利用が便利です。駐車場は建物の前の道路を挟み6台駐車可能なスペースがあります。



日替わり定食 500 円（写真は春巻定食）



野菜たっぷりカレー 350 円



唐揚げ定食 500 円



地図



入り口



店内

平成29年度「学位記・卒業証書授与式」

平成29年度「学位記・卒業証書授与式」が3月20日、本学福聚殿で執り行われました。学位記は大学院の修了生が通学制27人、通信制5人。卒業証書は社会福祉学科353人、社会教育

121人、福祉心理133人、産業福祉118人、情報福祉96人、子ども教育は175人、保健看護77人、リハビリテーション学科の作業療法専攻46人、同理学療法専攻41人、医療経営管理84人、通信教育部の282人で、全体では1,558人が対象になりました。

式に先立ち、卒業生に2つのプレゼントが贈られました。一つは思い出ビ



式辞を述べる大谷学長

デオ。二つ目は吹奏楽部と混声合唱団が「あすという日が」を披露。大谷哲夫学長から学位記と卒業証書が代表者に手渡されました。

管長賞と学長賞、特別賞、功労賞を受ける計22人の名前が読み上げられ、管長賞を受賞する情報福祉マネジメント学科の吉田竜登さんに横井真之理事長から、学長賞は大谷学長から社会福祉学科の比嘉一貴さんに賞状と記念品が授与されました。

大谷学長は「ご卒業、おめでとうございます。今後も明るく、しなやかに、そして強く生きていってほしいと願います」と式辞を述べました。続いて、横井理事長が曹洞宗管長の祝辞を代読しました。

卒業生総代の答辞は吉田さんが「ゼミで仲間と出会い、様々な視点から物事を考えることができるようになりました。見守ってくれた皆さまに感謝の意を表します」と語りました。

全員で校歌を斉唱。式後はスライドに、詩「一秒のことば」がキャンパス内の風景とともに映し出されました。

天候にも恵まれ、まさに卒業生の門出にふさわしい式になりました。

平成30年度入学式

平成30年度入学式が4月8日、桜が咲き誇る中、本学福聚殿で執り行われました。多数の保護者も参加し、華やかな雰囲気になりました。大学院は通学制の総合福祉学研究所の修士課程、教育学研究科、通信制の修士課程合わせ28人。

総合福祉学部は編入生を含め、社会福祉、福祉行政、福祉心理学で730人、総合マネジメント学部は産業福祉マネジメント、情報福祉マネジメント学科で236人、教育学部教育学科は初等教育、中等教育専攻合わせ288人、健康科学部は保健看護学科、リハビリテーション学科の理学療



宣誓文を読む綱脇君

法学、作業療法専攻、医療経営管理学科の263人で、合計1,545人が新たな仲間入りをしました。

大谷哲夫学長は「4年間は日数にすると1,460日。ごく短い期間ですが、人生の中でも豊かな時間です。一瞬たりとも疎かにせず、充実感のある大学生活を送ってください」と式辞を述べました。

曹洞宗管長の江川辰三猊下の祝辞を本学理事長の横山真之老師が代読しました。

新入生代表は情報福祉マネジメント学科の綱脇慧君。「新たな社会を構築するための有為な人材になることを目指し、努力することを誓います」と力強く宣誓文を読み上げました。

混声合唱団の歌声に合わせ、全員で校歌を斉唱。閉式後、さとう宗幸氏とステージ前に整列した混声合唱団が、参加者が見つめる中で「花は咲く」を披露しました。

式後、音楽堂けやきホールでは、入学式で3年連続の試みとなる吹奏楽部と混声合唱団による入学記念ジョイントコンサートが開かれ、新入生を歓迎しました。

硬式野球部 14年ぶり3度目の全国制覇

第67回全日本大学野球選手権

▽決勝（神宮球場）

国際武道大 0 2 0 0 0 0 0 0 0 2
東北福祉大 2 3 0 0 0 1 0 0 0 6

第67回全日本大学野球選手権大会決勝戦が6月17日に行われ、本学硬式野球部は国際武道大（千葉県大学）と対戦し、4戦連続2桁安打の11安打で



3度目の優勝を飾った選手とスタッフ

6-2と下し、14年ぶり3度目の優勝を果たしました。

初優勝を狙う相手に対し、打線が序盤から集中攻撃を見せました。1回裏2死、4番深江大晟三塁手（4年）が左翼に先制の2ラン。2回表に追いつかれましたが、その裏、二死一、二塁から1番吉田集中堅手（4年）の左前打で勝ち越し、2番中野拓夢二塁手（4年）、3番元山飛優遊撃手（2年）の3連続適時打で3点を奪いました。

6回には中野のこの日2本目の適時打で1点を追加。投手陣も今大会初先発の藤川昂連（4年）、三浦瑞樹、椋木蓮（ともに1年）と6回まで2点でしのぎ、7回からエース津森有紀（3年）を投入します。

津森は3回を打者9人で抑え、14年ぶりの日本一に。スタンドから応援を続けた学生、OB・OG、関係者らとともに、歓喜の瞬間を迎えました。

なお、今大会4戦18打数8安打2本塁打の活躍を見せた吉田選手が最

高殊勲選手賞（MVP）に、18回3分の2を投げ防御率0・00だった津森投手が最優秀投手賞に輝きました。

古川澄也主将（優勝は）みんなの気持ちで1つになった。昨秋のリーグ戦で3位に終わって、危機感を感じてきた結果も優勝につながったと思います」

吉田（勝負強い打撃でMVP）「チームのために頑張った。スタンドにもいる、4年生みんなのおかげです」

津森（春先のケガから復活し最優秀投手賞に）「日本一になってもらえたもの。すごくうれしいです」

大塚光二監督「最後は津森と決めていました。本当に良かったと思いました」

▽準決勝（6月16日）

東北福祉大 0 0 1 1 0 5 0 0 0 7
慶應義塾大 0 0 3 0 0 0 0 0 0 3

▽準々決勝（6月14日）

東北福祉大 2-1 白鵬大

▽2回戦

東北福祉大 不戦勝 東海大北海道

▽1回戦（6月12日 東京ドーム）

東北福祉大 8-3 広島大

古川主将が選手宣誓 「優勝」を口にし実現

第67回全日本大学野球選手権大会の開会式が6月10日、東京・渋谷区の明治神宮会館で行われ、3年連続3度目出場の本学硬式野球部・古川主将（4年）が選手宣誓を行いました。

出場27大学の全主将が壇上に居並ぶ中、「われわれは、学生野球憲章にある『教育の一環としての学生野球』を通して学んできた、フェアプレーの精神を遺憾なく発揮します。また、ルールを遵守し、相手に敬意を払い、正々堂々と戦うことを誓います」と宣誓し、大きな拍手を浴びました。

宿舎でも「1人で呪文のように唱えていました」という古川主将は大役を終え、ホッとした様子。抱負を語る場面では、全主将を前にして「優勝します」と口にし、まさに現実にしたのは見事でした。



開会式で宣誓する古川主将

硬式野球部員らが西日本豪雨災害支援

6月の大学選手権で3度目の優勝を果たした本学硬式野球部の部員11人が7月22日から24日までの3日間、西日本豪雨災害の被災地で支援ボランティアに取り組みました。

メンバーは、甚大な被害に見舞われた岡山県出身の7人をはじめ、大阪、山口など西日本出身の部員で構成され一足早く、自宅に戻りました。20日にタオルや飲料水、食料を積み込んだ車

2台に分乗し、本学から駆けつけた総務部の山路哲生氏、齋藤圭吾氏と21日に合流。22日午前8時半から岡山県小田郡矢掛町のボランティアセンターを

通じて作業に入りました。

矢掛町の現場は山から土砂が流れ、道をふさぎ、辺り一面を覆う凄まじき。匂いがきつく部員はマスクをしながらスコップを手に土砂を撤去、土のうをつくっては組み立てました。翌23日と24日は倉敷市真備町で、水に浸かった民家の家財道具や畳、ゴミの運び出しと格闘しました。

連日38度の猛暑が続き、ボランティアアセンタールの職員から「熱中症と闘わないでください」とクギを刺されながら最大午後4時まで、30分作業をしては15分休むという繰り返しでした。



民家の土砂を取り除く選手



ボランティアに参加した学生たち

4年生マネジャーの菊地凱人（かいと）さんは「とにかく暑かった。休むといっても日陰はなく、さすがにバテました。家の人から泥にまみれた写真を見てと言われた時は心が痛かった」と打ち明けました。

また、1年生の椋木（むくのき）蓮さんは「高齢のおじいさんが一番働くのを見て、自分たちが助けなければと思った」と思いました。

引率し、一緒に汗を流した齋藤氏は「（仙台とは）日差しが違った。風もなく学生が頑張るすぎないかが心配だった」と学生の熱中症を気にかけました。

一行は本学野球部OBで岡山県浅口市にある、おかやま山陽高校野球部の堤尚彦監督（平6社教卒）と連携を取りながら、寝袋を持ち込んで同校の一室を宿舎にしました。

3日間という限られた時間の中で、少しでも被災地に貢献したいと駆けつけた学生たち。仙台に戻ってから「何ができるかを考えたい。あの現場を見て、そう思う」と部員同士で話しています。自然災害の脅威を目の当たりにした学生たちは貴重な体験をした様子です。

「平成30年7月豪雨」と命名された今災害。台風7号が接近した7月3日以降、6～8日にかけて広島、岡山、

京都、愛媛など11府県にわたり「大雨特別警報」が発表されました。野球部はこれまでも1998年の那須・福島集中豪雨、2004年の新潟県中越地震、11年の秋田・角館の大雪被害にボランティア支援を実施しています。

犠牲になられた方々のお悔やみを申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興を願わずにはられません。なお、本学ではボランティア支援課を中心に、仙台市内で街頭募金活動を実施したほか、学内4カ所に募金箱を設置しました。

網地島で清掃活動も

優勝から2週間後の7月3日には、硬式野球部員約120人が本学と今年4月に連携協定を結んだ宮城県石巻市の離島・網地島に出向き、ボランティア活動に汗を流しました。

人口減少と高齢化に直面する自然豊かな同島。海開きを控えた白浜海水浴場で、ゴミ袋を手にした部員がペットボトルや打ち上げられたゴミを丹念に拾い集めました。

活動を終え、船が港を離れる際には、島民から何度も手を振られ、部員たちは名残惜しげな様子でした。

硬式に続いた 軟式野球部が3度目の日本一

第41回全日本大学軟式野球選手権大会

第41回全日本大学軟式野球選手権大会決勝が8月24日、長野オリンピックスタジアムで行われ、軟式野球部が1対0で中京学院大学を下し、2013（平成25）年大会以来5年ぶり3度目の優勝を遂げました。

今大会5戦中、4試合に完投し失点

わずか1。大阪体育大学との2回戦ではノーヒットノーランも達成した新妻涼太投手（産福マネ4年）が最優秀投手賞、決勝戦を含め2本塁打を放った川島直也内野手（産福マネ3年）が最優秀選手賞を受賞しました。

固いディフェンスと投手力で勝ち上

がってきた軟式野球部は、決勝戦もエースの新妻涼太投手を中心に相手に得点を許しません。3回二死から1番川島直也内野手がソロホームランを放ち、これが決勝点になり



青空が広がる球場で笑顔があふれた部員たち



胴上げされる小野コーチ

ました。新妻は9回を投げ切り4安打完封。粘り強い野球で日本一に輝きました。

優勝までの投手力に加え、5試合すべて無失策と鉄壁の守りに、采配を振った小野昌彦コーチは「優勝するという重圧の中で選手はよくやった。一人ひとりの状況判断が光っていた」と、選手の頑張りを手放しで称えました。

▽決勝（8月24日）

中京学院大 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
東北福祉大 0 0 1 0 0 0 0 0 0 × 1

【中】 浦田、椎葉・岡田

【福】 新妻・大塚

【本塁打】 川島（福）

▽準決勝（8月23日）

新潟医福大 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
東北福祉大 0 0 0 0 0 0 2 3 × 5

▽準々決勝（8月22日）

東北福祉大 0 0 0 0 0 0 0 1 1 0 2
流通科学大 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0

▽2回戦（8月21日）

東北福祉大 2-0 大阪体育大

▽1回戦（8月20日）

東北福祉大 14-1 東洋大学二部
（規定により6回コールド）

大谷学長に報告

8月27日、奥田祐平主将、新妻涼太投手（ともに4年）、川島直也内野手（3年）の3選手が、大竹榮部長、阿部靖彦監督、小野昌彦コーチとともに学長室を訪れ、大谷哲夫学長に日本一の報告を行いました。

優勝旗を傍らに、大谷学長と選手が

固い握手。
大谷学長は「日本一はなかなかできることではない。大したもの。よくやった」と健闘を称えました。



学長室で報告した選手3人（後列）

平成30年度体育会入会式

バドミントン元日本代表・小椋久美子さんが激励トーク

新入生を迎える平成30年度東北福祉大学体育会入会式が5月30日、国見キャンパス音楽堂けやきホールで行われました。第1部では、バドミントン元日本代表の小椋久美子さんに「夢を

叶える方法」オリンピックへの道のり」と題してお話いただきました。小椋さんは長年ダブルスでコンビを組んだ潮田玲子さんと、「オグシオ」の愛称で親しまれました。全日本選手



五輪出場の先輩である佐藤准教授の問いに笑顔で答える小椋さん（右）



誓いの言葉を述べる松田さん

権では2004年から8年にかけて5連覇を達成。2008年は女子ダブルスで北京五輪に出場しました。10年に現役を退き、現在は解説や講演などスポーツの魅力を伝える活動が続いています。

この日は1988年ソウル、92年バルセロナ五輪に出場した、本学女子バレーボール部監督の佐藤伊知子准教授とのトークショー形式で話を進めました。日本一に立ったとき、また五輪に出場したときの心境を振り返りながら、最後に「学生生活は戻ってくる時間ではない。壁にぶつかってもめげず

に向かつていくことが、競技後の人生にもつながります。時間を無駄にせず1日1日を送ってほしいと思います」と体育会員を激励しました。

第2部では各部の新入生217人が紹介されたのち、学生生活支援センター長の小玉一彦教授が「青春と情熱を傾けるとともに、仲間がいることを忘れず、自分の幹を太くする4年間に」、体育会会長の梶原洋教授は「スポーツだけでなく勉学も大切。アスリート、学生として、どのように過ごすかを考えてほしい」と心構えについて話しました。

続いて常任幹事会の尾形昇平幹事長（社福3年）が「若い感性と力を持って活躍してほしい」と歓迎のあいさつ。最後に1年生を代表して、女子卓球部の松田涼澄香さん（社福）が「日々努力を惜しまず、学生スポーツの理念である勉学を決して怠らず、体育会の発展に寄与していきます」と誓いの言葉を述べ、総勢723人となった全会員で校歌を歌い、士気を高めました。

網地島と協定締結

本学は宮城県石巻市のNPO法人ジョイフル網地島と「地域共創推進事業に関する協定」を4月26日、本学第1会議室で締結しました。本学からは大谷哲夫学長、大竹榮副学長、鈴木康夫教授、庭野道夫教授らが、同法人からは阿部孝博代表、小野喜代男理事・事務長、高橋秀一郎副代表が出席しました。

協定の目的は「資源の効果的な活用と相互の包括的な連携・協力により、農山漁村地域の活力ある個性豊かな地域共創社会の構築と発展に取り組む」ことにあります。

自然豊かな温暖な網地島の特色を生かし、菜の花栽培によるハチミツ収穫や商品開発、ミカンやユズの栽培、オリーブの苗木栽培、ヒジキ、ワカメ、アワビなどの商品化など、具体的な事業が計画されています。



署名する阿部代表と大谷学長（右）

オリーブの苗木を植樹

「網地島プロジェクト実践活動Ⅰ」を5月25日に網地島で実施し、学生5人が参加しました。今回の植樹は、NPO法人ジョイフル網地島との「地域共創推進事業に関する協定」締結後、初の活動となります。

天気にも恵まれ、行きに立ち寄った「三陸復興国立公園」月浦で、支倉常長ら慶長遣欧使節団一行がサン・ファン・パウティスタ号で、ローマに向けて出発した地を全員で踏みしめました。

一行が400年前に渡航先で見たと思われる樹齢400年のオリーブの木が大学にあることを学生は知り、大学からチュニジア産のオリーブの苗木を20本持参し、立脇地区に移植しました。苗木には記念の名入れプレートを設置。

次に来た時に、どの程度の成長をしているか見るのが楽しみです。



オリーブを植樹したメンバー

「島」であそべんちゃーin野々島

本学のボランティア活動支援寄付金を活用した「被災地の子ども支援活動」の5回目「島であそべんちゃーin野々島」が9月23日、塩竈市野々島で行われ、市内の小学4年生25人、学生65人が参加しました。

2014年から行われている日帰りの自然体験プログラムで、昨年度から「塩竈市学力向上プラン」と連携。小学生と学生がともに行動すること、で、「社会をたくましく生き抜く力」を磨き、双方で学び合うことを主目的としています。

学生は金政信、山口政人、高村元章先生のゼミ生で到着後、セレモニーと準備体操、メインの島探検とカヌー体験を4班に分かれて行いました。好天に恵まれ、小学生は大自然の中を動きまわり、心地良い汗を流しました。



昼食後「別れの集い」で小学生に記念写真と野々島のラベンダーの蕾から精製した手作り香水が手渡されました。



小学4年生25人と学生合わせ約100人が島の大自然を満喫

東日本大震災追悼行事に多数の学生が参加

東日本大震災が発生してから7年になろうとする3月10日と11日は、各地で犠牲者の追悼行事や防災・減災イベントが開催され、本学の学生、教職員がさまざまな場所で活動に参加しました。

10日は、仙台市宮地下鉄東西線の荒井駅にある「せんだい3・11メモリアル交流館」で、若林消防署、同交流館、本学が共催した「知って防災！」に、学生サークル「PASS」と救命ボランティア「FAST」の学生10人ずつが駆けつけました。

PASSは子どもが喜ぶコスチューム姿で登場し、防災レンジャー



レンジャーショーに親子も夢中に

ショーを演出。司会者が「地震が来たら、頭を守ろう!」と呼びかけたり、防災○×クイズでは「お風呂のお湯は飲めないの捨てたらいいか?」と問いかけ、×と答えるなど、ショーを通じて防災知識を指導しました。

親子連れを夢中にさせたショーに、代表の小森谷啓輔さん(教育2年)は「子どもたちが喜んでくれるので、やりがいがある。ふだん味わえない非日常がそこにある」と話しました。

FASTが考案した減災カルタ大会では、学生がカルタを読み上げると、子どもたちが競ってカルタを手にししました。代表の野地蘭さん(社福2年)は「クイズを新しく作り、ポスターにしました。今後子どもができる活動を続けたい」



カルタで子どもと遊ぶ学生

と手応えを感じていました。

11日は「Team Bousaisi」の学生が大活躍。仙台国際センターで開催された「東北復興アマチュア無縁フェスティバル」でブースを設けて、一般のボランティア学生を含めた10人が来場者に防災士のパンフレットを配布。説明するなど、アピールに努めました。山田史織さん(福行1年)は「もっと防災の知識を深めたい。周囲からたくさんさんの刺激を受けられる」と笑顔を見せました。

午後には別働隊10人が仙台市役所前の勾当台公園市民広場に集結。2時46分に集まった市民とともに犠牲者への黙祷を捧げました。ブースでは、昨年作成された冊子やサバメシの資料などを用意し、来場者に配布しました。代表の吉成仁紀さん(産福マネ2年)は「非常時のサバメシの作り方を参考にしたい、などと聞かれました。防災・減災の周知活動をしています」と頼もしく話しました。

夕闇迫る時刻にはステージ前でキャンドルナイトが行われ、参加者全員で犠牲者の冥福と防災への誓いを新たにしました。(学年はイベント開催時)

TKK3大学協働

9月2日に東松島市「あおい地区」でTKK3大学協働ボランティアを実施しました。東日本大震災以降、TKK3大学(東北福祉大学・工学院大学・神戸学院大学)では、連携して被災地支援活動を実施してきました。

今回は地域住民の方々と協働の清掃活動と地域コミュニティの支援を行いました。活動には学生ボランティア13人が参加(内訳:東北福祉大学7人、工学院大学1人・神戸学院大学5人)。活動終了後は東松島市内の被災地見学を実施し、東日本大震災当時の現状や復興状況について知ることができました。

本活動はTKK3大学が協働で活動する貴重な機会であり、学生同士の交流を深める場になりました。



道路清掃を行う学生

外国人住民対象の防災教室・訓練

東北福祉大学と仙台観光国際協会が共催した「外国人住民を対象とした防災教室・訓練」が6月2日、本学ステーションキャンパス館と駅前広場で開催されました。この取り組みは平成25年度文部科学省委託事業「学校施設の防災力強化プロジェクト」から派生したもので、今回で5回目の実施。

訓練を受けたのは、国見キャンパス近隣にある三条町のユニバーシティ・ハウスに住む東北大学の外国人留学生や学生、本学の留学生ら。運営スタッフとして学生サークルFAST、Team Bousaisi、ステーションキャン

パスクラブや仙台市青葉消防署国見出張所の署員、仙台市の災害多言語支



外国人が消火器訓練にトライ

援センターの方らが参加し、合わせて約300人の大規模な防災訓練になりました。

初めに多言語防災ビデオ「地震！その時どうする？」を上映。東日本大震災時の揺れが再現された映像に、参加者は真剣な眼差しを注ぎました。その後、言語別グループに分かれて心肺蘇生法・AED（自動体外式除細動器）の操作法を体験。また、消火器を用いた消火、倒壊家屋救助、炊き出し、濃煙体験など、さまざまな訓練を受けました。宮城県から借りた燃料電池自動車の展示と電源使用の説明もありました。

本学で学ぶ中国・大連大学の交換留学生、郭起航さんは「地震や火災のときはどうするか、自分の身を守る方法を学べました」と、初めて参加した訓練での収穫を口にししました。



AEDの操作説明を聞く外国人

東口キャンパスでも帰宅困難者訓練

9・11の防災の日を前にした8月31日、JＲ仙台駅が緊急避難場所になり、東北福祉大学仙台駅東口キャンパスなど4カ所の一時避難場所に誘導する「平成30年度仙台駅周辺帰宅困難者対応訓練」が大々的に実施されました。本学からは災害対策課や防災士研修室などの職員、学生合わせて約50人が参加しました。

7年前の東日本大震災で帰宅困難者が駅周辺にあふれた教訓を踏まえ、仙台市やJＲ東日本を交え、対策連絡協議会が発足。この日は各事業所の防災や一時避難場所の運営マニュアルの



東口キャンパスで車いす誘導を学ぶ参加者

検証、関係機関と仙台市による対応策の確認を目的に開催されました。

内容は発災時に自身の身を守る初期対応、緊急避難場所への避難誘導、車いす利用者や妊婦、高齢者など要配慮者への支援、帰宅困難者への食料・物資の提供など多岐にわたりました。

また、対策本部と各機関の情報整理と情報共有、帰宅困難者への情報提供とそのスキルアップ、各種ツールによる情報提供訓練などが行われました。

約100人の避難者が訪れた東口キャンパスでは、車いす利用者の安全な誘導や救急救命士によるAED（自動体外式除細動器）の取り扱い説明が行われました。

一時避難場所のアエルからSS30までの車いす誘導に参加した本学学生の菊池樹さん（産福マネ4年）は「段差と坂道に気がつけた。本番ではエレベーターが使えないことも考えた。いい経験をした」と話しました。

今夏の異常気象で世界各地が酷暑や台風、洪水に見舞われています。いっどんな災害が起きるか予断が許されない中、参加者は緊張感を持って臨みま

3・11「伝える／備える」次世代塾第2期開講

河北新報社、仙台市と東北福祉大学が運営中核を担う「3・11『伝える／備える』次世代塾」第2期が4月21日、仙台駅東口キャンパス館2階で開講しました。

講座に先立ち、開講式が行われ、宮城県を中心に大学生113人、社会人19人の計132人が顔を揃えました。本学からは運営をサポートする学生7人を含め41人が参加しました。

主催者を代表して、河北新報社の一力雅彦社長が「第1回の昨年在110人、今年は132人と全国から社会人、学生を問わずの参加は心強い。災害に強い街だけでなく、災害に強い人間をつくるのが大切だ」と挨拶を述べました。顧問として参加した



受講生を代表して挨拶する河辺さん

東北大学災害科学国際研究所の今村文彦所長に続いて、本学防災士協議会の船渡忠男会長は「災害を経験した人の熱い話を受けとめ、共通して伝える、備えるにつなげてほしい」と話しました。

受講生を代表して、本学教育学科2年の河辺千尋さんと同志社大学4年の浅田将希さんが挨拶。河辺さんは「当



グループごとに「震災とは何か」を話し合う受講生

事者の生の声を基に、仲間と共に学べることに大きな魅力を感じ、自ら学ぼうと決意しました。震災の知見を伝え、災害に備える一人になることを誓います」と言葉に力を込めました。

第1回講座では、オリエンテーションと1つの班に十数人ずつの10班が編成されました。班ごとのグループワークでは、「私たちにあって、震災とは何か」をテーマに話し合いました。

初めに、自己紹介を兼ね「東日本大震災と聞いて、どんなことを思い浮かべ、一人ずつ述べ、次に班長が「何を学んで行くのか」をボードに書き留めました。

まとめが班ごとに発表され、「次世代につながる力、自分で伝える力を身につける」や「震災時の人とのつながりを学ぶ」など、参加者の熱い思いがあふれました。

なお、講座は来年の3月まで月1回、第3土曜日を基本に、年15回無料で開かれ、最後に修了証が発行されます。

夏休み親子教室

仙台リビング新聞社主催の夏休み親子教室に、福祉心理学科の渡部純夫学科長が登場し8月8日、国見キャンパスラーニングコモンズ寿で楽しい授業を開催しました。テーマは「自分の深層心理を知ろう」で、小学4～6年生と保護者10組、20人が参加しました。

心理療法の一つである箱庭を、おもちゃでなく紙を用いて体験。作業はいったって簡単で、親子が雑誌から別々に好きな写真や絵を切り抜いて、画用紙に貼り付けるコラージュという方法を採り入れました。

自由に自己表現することで、自分自身の深層心理が明らかに、言葉では表現しにくい部分が理解されるという仕組みです。これから思春期を迎える子ども

の気持ちに寄り添えるよう、親子で楽しみながら取り組みました。



親子を楽しませた渡部学科長

TFU 保育事業研究会 2018 主題 「乳児・未満児保育の質を考える」を開催

保育士・幼稚園課程による「TFU 保育事業研究会 2018 主題『乳児・未満児保育の質を考える』」が6月2日、国見キャンパス大教室ほかで行われ、学生、卒業生、保育関係者、他大学関係者ら約450人が参加しました。

全体会と分散会の2部構成で行われたこの日の研究会。第1部の全体会では、首都圏で普及する小規模保育事業を展開する保育園に、4、5月と2度現地に滞在し、保育実践参画を行いながら「乳児・未満児保育の質」をテーマに実態調査をした学生の報告と、学生を受け入れていただいた4事業所による事業内容等のプレゼンテーション

がなされました。

学生が各事業所での保育実践参画と2度の調査、そして報告を行い、成果を全体で共有し合いながら「保育の質」に迫るという試みは、日本の大学・保育者養成校では初とのこと。4月の

第1回調査では、学生自身



第2部では学生が熱心に説明する

際を詳細に記録。5月の第2回調査では、保育の質評価の指標である「ITERS」(イターズ)を用い、第1回調査の内容を精査したうえで、さらには経営者インタビューまで行うなど、各園の「保育の質」に迫りました。第2部の分散会ではさらに内容を掘り下げ、学生の座長と指定討論者を交え、さまざまな意見交換を行いました。調査を行った学生たちの多くが「受容とは? 応答とは?」といった本質的なテーマを掲げながら、実際に現場の先生方との対話を通して学びを深めていったことなど、キーワードやエピソードを交えながら紹介しました。

5月18日、宮城県警察本部で行われた宮城県警察大学生サイバーボランティアの委嘱式に、本学情報福祉マネジメント学科が推薦した学生も出席し、宮城県警察から委嘱状を受け取りました。委嘱期間は1年間で、本学科の2～4年生の学生21人が活動します。

宮城県警から委嘱状

宮城県警察公式の活動であり、インターネット上に氾濫する違法情報・有害情報を発見し、警察に通報するもので、本学科は今年度より初の参加となります。

本学では、情報倫理、特講(iコンプライアンス)の講義などを通して、SNSでのモラル等の教育も行っています。建学の精神である行学一如の実践としてこの活動を行い、学科の教育の特色や成果を活かして、若者の身近な危険を少しでも減らすことに貢献できればと考えています。

全国を大幅に上回った社福士と精保士の国家試験合格率

3月15日、第30回社会福祉士国家試験、第20回精神保健福祉士国家試験の合格発表がありました。

本学の現役合格者は社会福祉士103人(合格率71・5%)、精神保健福祉士21人(合格率75%)で、両資格ともに、全国の現役合格率を大幅に

上回る結果でした。

社会福祉士の現役合格率については、現役合格者100人を超える大学(5校)の中で、全国1位の快挙となりました。

本学では、国試対策講座、自主学習支援講座、通信教育部の国試対策講座

など、様々な学習支援の機会を学生に提供し、レベルアップに向けて取り組み、着実に成果を上げています。

学生の頑張りはもちろん、実習指導者の方々をはじめ、本学の養成教育にご協力いただいております皆さまにあらためて感謝いたします。



委嘱状を手にする本学学生

合同企業業界セミナー2018開催

東北福祉大学「合同企業業界セミナー2018」が3月8日、本学福聚殿で開催されました。2019年春に卒業予定の3年生約550人に対し、江尻行男キャリアセンター長が「企業の方には説明をよろしく願います。学生は有意義な一日にしよう」と挨拶し、幕を開けました。

会社説明会の解禁が3年連続で3月1日からになり、会場には午前・午後の部に分かれて60社ずつ、合わせて120の企業・団体が参加。人気の企業・団体には、ブースに用意された座席が間に合わず、立ちながら説明を受ける学生の姿も見られるなど、熱気にあふれました。

マスコミが学生優位の「売り手市場」



学生に概要を説明する担当者

と伝える一方で、面接など本格的な選考開始が3年連続6月1日スタートの「短期決戦」となり、学生も早期の行動開始が大切になっています。

セミナーに参加し、午前中だけで4社の説明を受けたという女子学生は「他の説明会でも聞いた会社に戻ったが、午後は説明を聞いたことのない会社にも行きたい」と積極性を見せれば、企業の担当者は「福祉大の学生は傾聴心がある。あとは向かう姿勢が出ればもつといい」と、双方とも期待を話しました。



企業側の説明を聞く学生

「公務員業務セミナー」を初開催

キャリアセンターでは9月6日、ステーションキャンパス館で1年生から3年生を対象に「公務員業務セミナー」を開催しました。

自治体等による業務説明会は、過去に個別での実施はありましたが、複数の官公署や事業所が一堂に会しての開催は今年が初めて。それぞれの人事担当者から職種や業務内容の説明を受け、「正しい情報」を受け取り今後の進路選択に役立てることを目的として

います。

この日は警視庁や宮城県、仙台家庭裁判所など9つの官公署と事業所がブースを構え、約200人の学生が参加しました。参加者は関心のあるブースで30分ごと、計4回の説明を聞きながら、それぞれの業務への理解を深めている様子でした。

〈参加学生の感想〉

「あまり知らなかった分野の業務についてもお話しを聞くことができて、視野が広がりました」。

「今までインターネット等で調べても良くわからなかったことを直接質問できて良かった」。

「地元の公務員についてのことしか調べていなかったが、知らなかった部分も知ることができた。今後の就職活動に役立てられそうです」。

「希望する職について理解を深めることができた」。「業務について疑問に思っていたことが解決できて良かった」。



複数の官公署と事業所が集まった業務説明会

平成30年度「EPA養成講座」を開講

宮城県と東北福祉大学が連携する「EPA等外国人の介護福祉士国家資格取得に向けた養成講座」が4月13日スタートし、講義に先立って、開講式が仙台駅東口キャンパスで行われました。平成29年度に始まり、2年目になります。平成30年度はインドネシアのアルマさんとデイストラさんの女性2人を迎え、1期生のナインティさんとイカさんを合わせて4人の受講生が講義に臨みました。

開講式で、宮城県保健福祉部の渡辺達美部長が「多様な人材が必要とされ、全力でバックアップする」とあいさつを述べれば、本学国際交流センターの高橋加寿子センター長が「合格を通じて、いい人間関係の広がりをお願い」と話しました。

自己紹介で、アルマさんは「日本語の勉強を頑張っている」、デイス



4人の受講生（前列）とスタッフ

ラさんは「緊張している。支援に感謝です」としっかりした日本語で対応しました。2人は日本語講師から週1回、月4回の対面授業で介護日本語の講義を受けます。

1期生で、同じインドネシア出身のナインティさんは「合格に向けて頑張ろう」、イカさんは「ようこそ。（私は）来年の試験に向け、頑張っている」と日本語で歓迎しました。

EPAとはEconomic Partnership Agreement（経済連携協定）の略で、本事業は、EPA等で来日した外国人の介護福祉士の国家資格取得を後押しし、質の高い人材を育成するのが目的です。

受講生は平成29年度がインドネシア人2人、在留フィリピン人4人で、今年度の2人を加え、8人になります。



熱心に学ぶ外国人受講生

「せんだんの杜」職員に福祉を学ぶ

「東北福祉大学の関連施設について学ぶ」をテーマにした授業が6月13日午後、本学の大教室で行われました。1年生を対象にした初年次教育科目「キャンパスライフ入門」の授業の1コマで、社会福祉学科を専攻する約480人が参加しました。

乳児から高齢者までの人生全般を守る範囲にする本学の関連法人・東北福祉会に所属する「せんだんの杜」から、保育園や児童自立援助ホーム、通所介護事業所、特別養護老人ホームで現場を預かる職員9人が、1年生の福祉理



せんだんの杜の職員を紹介する金教授（左端）

解のための一助になろうと駆けつけました。

はじめに、総合福祉学部の金政信教授が「せんだんの杜」の協力で実現した施設を紹介しながら、皆さんが将来進む道への一つのきっかけづくりになればいい」と授業の目的を話しました。

学生に少しでも福祉への関心を高めてもらおうと職員が工夫を凝らし、保育園に始まり、放課後デイサービス、児童自立援助ホーム、小規模デイサービス、特別養護老人ホームまでリレー形式で、施設を利用する子どもから高齢者までの生活ぶりを物語風に仕立てた寸劇を披露しました。

熱演した職員一人ひとりが自己紹介を受け、せんだんの杜児童福祉施設の小野寺道子総合施設長が「福祉って何」を長年、問いかけてきた。職員は誇りを持って仕事に取り組んでいる。（皆さんにも）仲間として、一緒に学んで施設に遊びに来てほしい」と期待を込めて話しました。

熱心に見守った熊井悠大さんは「施設があることは知っていたが、今回こういうところがよく分かった」と話し、収穫ありの様子でした。

平成 30 年度「教育懇談会」の参加人数

会 場	参加総数	参加組数	学年別（組）				個別面談（組）			
			1 年	2 年	3 年	4 年	キャリア	教務	学生生活	
仙 台	605	431	156	120	101	54	60	69	11	
青 森	64	50	20	6	16	8	17	18	—	
盛 岡	75	55	25	14	14	2	12	18	—	
宇都宮	33	22	6	6	9	1	7	7	—	
水 沢	48	35	11	9	11	4	9	8	—	
秋 田	81	58	14	20	16	8	18	17	—	
酒 田	32	25	4	10	9	2	9	5	—	
山 形	123	99	28	20	32	19	30	16	—	
いわき	28	19	8	4	6	1	3	1	—	
郡 山	89	62	21	16	18	7	13	12	—	
合 計	1178	856	293	225	232	106	178	171	11	

平成 30 年度「教育懇談会」 仙台から郡山まで 10 会場で開催

仙 台

平成 30 年度「教育懇談会」は仙台会場を皮切りに 7 月 1 日、東北福祉大学国

見キャンパスで開催されました。宮城県をはじめ、東北六県、北海道、栃木、東京、沖縄など全国各地から 1、2、3、4 年生の保護者約 600 人が駆けつけました。名称は前年度までの「保護者の会」から変更されました。

音楽堂けやきホールで開催された全体会では、大谷哲夫学長が「本学は建学の精神『行学一如』を基に発展して来た。学生は自分を成長させたい、目的を明確にしたい、という気持ちを持っている。これらを叶えられるように（態勢を）強化してい

る」と歓迎の挨拶を述べました。教務部の阿部裕二部長、学生生活支援センターの小玉一彦センター長、キャリアセンターの梶原洋センター長が「大学の現況、就学状況等」の説明を行いました。

続いて、キャリアセンターの職員が、就職活動支援の内容を紹介する「手づくり DVD」（約 30 分）が放映されました。なお、この DVD は 7 年連続、全会場で放映されます。

お昼には学生食堂でカレーライスの学食体験、午後 1 時から学科別のガイダンスが 9 つの教室で行われ、学科ごとの特徴や取り組みが紹介されました。その後、事前予約済みの保護者を対象にした個別面談が行われ、キャリアセンターに 60 組、教務部に 69 組、学生支援センターに 11 組が参加しました。

帰り際に「いい話を伺えた。来たか



大谷学長があいさつ

で安心した」など印象が聞かれました。また、アンケートには「子どもが学んでいる環境を見ておきたかった」や「ないとは思いますが、未成年の飲酒はさせないよう徹底させてほしい」など、子を感じる心が記されました。

仙台以降の日程は 7 月 7 日が青森市、8 日盛岡市、14 日宇都宮市、21 日奥州市水沢区、22 日秋田市、28 日酒田市、29 日山形市、8 月 4 日いわき市、5 日郡山市と続きます。仙台を含めた開催は 9 年連続で、今回は 1 年生から 4 年生までの全学年の保護者が対象になります。

年々高まる就職に関する情報提供と、家庭と大学が円滑な連携を図り、学生の成長を後押しすることが目的です。学業、学生生活、就職と大学生活全般にわたり、教務部やキャリアセンターが主になり、対応いたします。



キャリアセンターで資料を閲覧

青 森

青森会場は 7 月 7 日、「青森アラスカ」で開催されました。全体会には 64 人が参加。最初に教務部の松本祥子副

部長が授業日程、資格、学びを支える人材育成などを説明しました。キャリアセンターの大内真弓副センター長は就職状況とその内容や社会が求める人材像に触れ（学生には）センターに足を運んでほしい。コミュニケーションを取ることで「インターンシップはどのような選ぶのか？」と問われ、「大学と提携している所や自主開拓型、また、今はホームページでの募集などもある」と回答しました。

DVD の視聴後には、キャリアセンターに 17 組、教務部に 18 組の個別面談が行われました。



全体会の質疑応答に際して

盛岡

「教育懇談会」盛岡会場は7月8日、ホテル東日本盛岡で開催され、全体会には、八戸市や気仙沼市など岩手県外を含め、75人が参加しました。

教務部の松本副部長が国家試験について「合格率が上がるように見直しを含めて対応している」、さらに「相談は一人で抱え込まないで」と、教務部や学生支援センターの利用を呼びかけました。

キャリアセンターの関川伸哉副センター長は「見えにくい根っこの成長を促したい。保護者は（学生の話を）聞くことが大事で、前に進めるよう勇気づけてほしい」と語りました。

DVD視聴後、キャリアに12組、教務18組の個別面談が行われました。アンケートには「大学の現状が知りたかった」、

参加者からは直接「来てよかった。次回もまた来たい」などの声がありました。



個別面談コーナー

宇都宮

宇都宮会場は7月14日に栃木県の宇都宮グランドホテルで開催されました。千葉県、茨城県、埼玉県を含め、全体会に22組33人が参加。教務部の下山田鮎美副部長が大学の現状と学業の説明をしました。

キャリアセンターの関川副センター長は、社会が求める人材像に触れ、「信頼、協同、挑戦、失敗から学ぶ」姿勢を強調し「支援は総合的に行っているので、センターを利用してほしい」と呼びかけました。

質疑応答では「教員採用試験のサポート態勢は」と聞かれ、「民間の講座案内やゼミを含めて支援している」と話しました。

DVD視聴後、キャリア、教務ともに7組の個別面談が行われました。

アンケートには「人数が少なくても、開催してくれてありがたい」などの声がありました。



キャリアセンターの関川副センター長

水沢

水沢会場は7月21日、水沢グランドホテルで開催され、全体会に35組48人が参加しました。

教務部の白井秀明副部長が、年度終わりに保護者に送付される成績表の見方を解説し「ただ単位を取ればいいわけではない。不安があれば電話でも構わないので相談してほしい」と強調しました。

キャリアセンターの佐藤英仁主任は「昨年から最高水準の売り手市場ではあるが、希望の職種に就くためには早めの対策が必要」と話しました。

DVD視聴後、教務部とキャリアセンターのブースに分かれ、個別面談を行いました。

参加者からは「不安に感じていたことが理解でき安心した。学年によって状況が変わると思うので今後も参加したい」といった声が寄せられました。



キャリアセンターの佐藤准教授

秋田

秋田会場は7月22日、ホテルメトロポリタン秋田で開催され、58組81人が参加しました。

全体会では教務部の白井副部長が「座学だけではなく様々な学習機会を通じて、社会に求められる人材育成をめざしている」と話しました。

キャリアセンターの佐藤主任は、今年度からスタートした1年生から4年生まで体系的に学ぶインターンシップについて説明。「センターでは様々な講座や支援を行っている。積極的に活用してほしい」と訴えました。

全体会終了後は、内定者や採用担当者を集めた動画を放映。その後、教務部とキャリアのブースに分かれ、個別面談を行いました。参加者から「今回の内容を参考に子どもをサポートしていきたい」などの声がありました。



全体会で説明する白井副部長

酒田

「教育懇談会」酒田会場は7月28日、ホテルリッチ&ガーデン酒田で開催されました。全体会には32人が参加。

教務部の岡正彦副部長が卒業するための単位取得要件やGPA (Grade Point Average) に関する事など、学年に合わせた説明を行いました。キャリアセンターの梶原洋センター長は、就職活動の現状やセンターの取組について説明しました。

個別面談にはキャリアセンターに9組、教務部に5組が訪れました。「親としては山形県内に就職を希望しているが、何人くらい実績があるのか。将来的(3~5年後)に地元に戻るの可能性がある。福祉施設と一般企業では就職活動が異なるので本人も悩んでいる」などの面談内容に対して、所属学科や希望分

野などを踏まえ、一人ひとりに適した回答が行われた。



司会を務めるキャリアセンタースタッフ(右)

山形

山形会場は7月29日、ホテルメトロポリタン山形で開催され、全体会には昨年を上回る123人が参加しました。

初めにキャリアセンターの梶原センター長が大学の現状について触れ「(学生を)地域のリーダーになれるよう育成している」と話しました。

教務部の岡副部長は「修得単位不足の場合、アドバイザー(ゼミ担当教員)が面談しながらサポートします」と説明。また、梶原センター長は「地域別で7割の学生が東北六県に就職している」と付け加えました。

DVD視聴後、キャリアセンターに30組、教務に16組の個別面談が行われました。アンケートには「1年生なので入学して、その先までは考えていなかった。あらためて子どもと話し合いたいと思った」などの感想が寄せられました。



受付で案内をするスタッフ

いわき

8月4日、いわき会場(いわきワシントンホテル)に19組28人が参加しました。全体会では、教務部の阿部裕二部長が成績表の見方などについて説明。

1年間の履修上限に触れ「年間上限の」46単位に近い単位を若い学年のうちに取るようにすると、4年時の就活に余裕が出ます」と話しました。

キャリアセンターの大内真弓副センター長は最近の就職動向を説明し、保護者の方にも「今を知る」重要性を強調。「勤めて終わりでなく、仕事を続けていく力が大事」と就業力育成が今のキャリア教育であるとししました。

参加者からは「3年時までに(卒業に必要な)大部分の単位を取っているのか」、「キャリアセンターの講座やセミナーは授業以外の時間で行われるのか。また費用は発生するのかなど、積極的な質問をいただきました。



教務部の阿部部長が説明

郡山

今年度最終となった8月5日の郡山会場(ホテルハマツ)には62組89人の保護者の方が参加。教務部の阿部部長は、実習や異文化交流、部活など本学の人材育成プログラムに触れ「活動を通じて厚みのある人間力のある人材を育成していく」と述べました。

キャリアセンターの大内副センター長は保護者の方へのお願いとして「話を引き出すと本人の考えもまとまっていきます」として、就活に関して経験や押し付けたり、学生の考えを否定したりしないことが重要とししました。

参加者からは「参加するまでは資格をとってそれを生かせる職種についてほしいと思っていたが、福祉の仕事にこだわらず、企業も含め広い分野に目を向けて本人と話をしていきたい」など前向きな感想が寄せられました。



全体会の様子

相場 恵講師(任)

担当科目 リエンゼンゼミⅠ(基礎演習)、基礎介護技術、介護実習指導演習Ⅰ、Ⅱ、認知症の理解と支援Ⅰ、介護技術

Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、形態別介護過程(特講)(介護福祉講座)

介護福祉論Ⅱ、介護論(介護福祉講座)

千葉県出身、東北福祉大学総合福祉学部社会福祉学科福祉学専攻修了、一般財団法人北日本カレッジ福祉日本医療福祉専門学校介護福祉科専任教員、教務主任、同じこともマイスター養成科専任教員、教務主任等を経て平成三十年四月から本学講師

平川
昌宏

同	高野亜紀子
同	太田 聡一
同	小野木弘志
同	千葉 伸彦
同	門脇佳代子
職員(専任)	
(教務部大学院事務室兼リハビリテーション学科担当)	藤田めぐみ
同(通信教育事務部通信教育課)	榊 清美
同(学生生活支援課)	高野 香織
同(財務部財務課)	高橋由美子
同(総務部兼せんだんホスピタル)	兒玉 拓
同(企画部企画課)	田村美瑞帆
同(学生生活支援課兼同窓会事務局)	武田みなみ
同(ボランティア支援課)	佐藤 玲於
▽役職任命	
総務局長	福富 哲也
IRセンターセンター長(兼)	福富 哲也
IRセンター教育情報分析室室長	
調査・分析部門担当(兼)	白井 秀明
IRセンター教育情報分析室室長補佐	
調査・分析部門担当(兼)	大関 信隆
総合マネジメント学部学部長	鈴木 康夫
健康科学部学部長	樋渡 正夫
福祉行政学科学科長	阿部 裕二
産業福祉マネジメント学科長(兼)	鈴木 康夫
情報福祉マネジメント学科長	大内 誠
教育学科兼子ども教育学科兼	熊谷 和彦
社会教育学科主任(初等教育専攻)	朝倉 充彦
教育学科兼子ども教育学科兼	朝倉 充彦
社会教育学科主任(中等教育専攻)	杉山 敏子
保健看護学科学科長	

リハビリテーション学科学科長(兼)	樋渡 正夫
通信教育部副部長(兼)	三浦 剛
通信教育部副部長	佐藤 俊人
図書館館長	星山 幸男
総合福祉学研究科研究科長代行(兼)	三浦 剛
総合福祉学研究科福祉心理学専攻主任(兼)	皆川 州正
教育学研究科研究科長	岡田 清一
教育学研究科主任	山下祐一郎
通信制大学院総合福祉学研究科主任	田中 治和
法務室室長(兼)	福富 哲也
感性福祉研究所事務局長(兼)	福富 哲也
教務部副部長	岡 正彦
同	松本 祥子
同	下山田鮎美
教育開発支援室室長(兼)	皆川 州正
教育連携支援室室長(兼)	松本 祥子
学修創造・ライティング支援室室長(兼)	朝倉 充彦
福祉実習支援室室長補佐	石黒 亨
同	石附 敬
教職課程支援室主任(保育・幼稚園担当)	和田 明人
特別支援教育研究室室長	大西 孝志
学生生活支援センターセンター長	小玉 一彦
ウエルネス支援室室長	大関 信隆
キャリアセンターセンター長	梶原 洋
キャリアセンター副センター長	生田目学文
同	大内 真弓
同	関川 伸哉
同	工藤 健一
同	佐藤 英仁

国際交流センター主任	清水 由賀
社会貢献・地域連携センター	坪川 宏
センター長(地域連携担当)	
社会貢献・地域連携センター	庭野 道夫
センター長(社会貢献担当)	
社会貢献・地域連携センター	金 政信
副センター長	富澤 弥生
同	
社会貢献・地域連携センター	草間 吉夫
事務局長	
地域福祉研究室室長(社会貢献・)	都築 光一
地域連携センター	鍛代 敏雄
生涯学習支援室室長(社会貢献・)	山口 政人
地域連携センター	秋田 恭子
地域連携センター	次世代育成支援室室長(社会貢献・)
地域連携センター	下山田鮎美
予防福祉健康増進推進室室長	
(社会貢献・地域連携センター)(兼)	
認知症予防・対策研究室室長	船渡 忠男
(社会貢献・地域連携センター)	
防災土研修室室長(社会貢献・)	伊藤 恒敏
地域連携センター(兼)	船渡 忠男
防災土研修室室長補佐(社会貢献・)	齋藤 昌宏
地域連携センター	金 義信
地域連携センター	平間 正志
通信教育事務部次長	高橋 政行
キャリア支援課課長	吉田 孝
教務部教務課課長(大学院・リハビリテーション学科担当)	

通信教育事務部通信教育課課長補佐	菅野 陽子
入学センター入試課課長補佐	駒野 真司
通信教育事務部通信教育課課長補佐	尾形 恒紀
総務部課長補佐(せんだんホスピタル)	大竹 晋一
総務部総務課主任	川村久美子
通信教育事務部通信教育課課長補佐	星 絢太郎
通信教育事務部通信教育課主任	伊藤 隆志
財務部財務課主任	新野久美子
財務部補助金・助成金課主任	菅澤 弘幸
キャリア支援課主任	菅原 隆志
管財部管財課主任	大石 康弘
▽所属変更	
通信教育事務部	平間 正志
社会貢献・地域連携センター	竹山 光二
地域共創推進室	岩周 宏展
社会貢献・地域連携センター	
地域共創推進室	
教務部教務課(大学院・リハビリテーション学科担当)	吉田 孝
企画部企画課	上岡 良一
総務部(せんだんホスピタル)	大竹 晋一
社会貢献・地域連携センター	佐藤 真幸
防災土研修室	関根 加織
教育・教職センター教職課程支援室	中條 春奈
教務部教務課	

学内インフォメーション

「知・体・心」の総合的能力を醸成

教務部教務課

◆一年次からのインターシップ教育の導入
今までは二年次以上に学年配当されていた「インターシップ」が、平成三十年度から「キャリアデザイン・インターシップ」として一年次から開講されました。本科目は、将来のために

早期の段階から「人間としての自分を理解すること」と「他者との関係性の中で成り立つ自分」を認識させるものです。つまり、社会人として、また職業人として生きていく自分の出発点での立ち位置を知る作業であり、自分の特質を理解し、職業人生を歩いて行くための方向性を見いだすことを目的としているのです。

これは、キャリア教育一環として位置付けられており、自分の将来をデザインしていく力、必要な情報を収集し整理する力、人間関係を築く力、意思を決定する力を養う取り組みでもあります。

◆キャリアと実践活動に関する科目の意義
また、「キャリアと実践活動に関する

科目」群も今年度から導入されました。具体的な内容としては、キャリア支援に関する諸活動、大学や学科が指定するさまざまなプロジェクト実践活動、そしてスポーツまたは文化に関する分野における諸活動などであり、これらの活動に係る学修の成果を単位認定するものです。

このような科目群は、学生の主体的学びを評価するためのものであり、本学における「行学一如」という建学の精神を具現化する試みであります。さらに、本学における基盤的な教育にも位置付けられるものです。

各学部学科における専門的な学びとともに、キャリアデザイン・インターシップや各種実践活動を通じて、「知・体・心」の総合的能力を醸成することが肝要なのです。

福祉実習支援室

福祉実習支援室では、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、介護職員初任者研修、レクリエーションインストラクター、スクールソーシャル

ワーカーの資格取得支援を行っています。

後期は、学びの集大成として、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士の国家試験合格に向けた受験対策に取り組み4年生に対して、しっかりとサポートしていきたいと考えています。

また、精神保健福祉士実習指導者講習会が8月4日・5日に日本精神保健福祉士協会および日本ソーシャルワーカー教育学校連盟と本学との連携事業として、仙台駅東口キャンパスで開催されました。受講者は68名。2日間で14、15時間に及ぶ全プログラムに出席した方に修了証書が発行されました。修了生の方には、ぜひ実習生の受け入れとご指導をお願いいたします。

教職課程支援室

教職課程支援室では、教員免許状・保育士資格の取得を目指す学生の実習・教員採用試験受験対策の支援等を行っています。今年度の実習生数は表の通りです。

平成30年度教育実習・保育実習生数	
実習種別	人数
幼稚園	88名
小学校	155名
中学校	36名
高等学校	26名*
特別支援学校	120名
養護教諭	41名
保育士	98名
計	564名

*うち地歴公民18名、福祉8名

教員・保育士を目指す学生一人ひとりに合わせたサポートができるような心がけていきたいと考えていますので、ご家族のより一層のご支援をお願いいたします。

教育学部（子ども教育・社会教育学科が統合）

◆学びを深める教育学部
来春には教育学部1期生が卒業を迎えます。残り半年間は、4年生にとってこれまでの学びを振り返り、将来への土台を築く時期となります。

2020年度全面実施となる新学習指導要領が目指す「主体的・対話的で深い学び」へとつながる実践を多くの機会を捉えて行っています。

特に、前期に新しく開設されたラーニング・コモンズ@ミュージアムで協働学習体験を学生主体となつて行っています。これから教育現場で求められる協働性もこうした活動の積み重ねによつて醸成されることと思います。

さらに、10月6日（土）には、今年で7回目となる「TFU教育フォーラム」が開催され、卒業生・在校生等多くの参加があり、発表やグループワークを通し、学びを深める一日となりました。

健康科学部

健康科学部では、医療関連業務に携

わる人材を育成し、社会に貢献出来るように努めております。寿命の延長と同時に少子化が進展し、高齢化社会への急速な移行が進む中、万人が望む健康を達成するには、保健・医療・福祉のすべての領域の発展に寄与し、各領域の融合・調和に寄与する優秀な人材が求められております。

これらの領域に深い興味を持ち、健康に役立つ知識と教養・技術を習得し、本学の掲げる「行学一如」＝「理論と実践の融合」の教えの元に、豊かな人間性と高い倫理性を培うことで、多くの方の健康維持・増進に役立つ人材を送り出せるように努力を続けております。卒業と同時に必要な資格を取得して、社会に向かって飛び立つことを期待しております。

学生生活支援課

◆硬式野球部優勝の陰にチア応援

平成30年6月17日、本学硬式野球部が全日本大学野球選手権大会で14年ぶり3度目の優勝、日本一を飾りました。日本一の陰には、専属応援団として活動する学生団体「チアリーディングチーム ASCEND & Red Gleams」(以下チア)の存在を忘れることはできません。

チアは昭和56年6月に野球部の応援

のために結成されました。結成以降、野球部一筋に熱烈な応援活動を行ってきています。

野球部の活躍は華やかに報じられますが、チアの活動が報じられることはありません。歴代のチア部員の熱い想いが、硬式野球部を3度の優勝に導いた「陰の功労者」だと学生生活支援課は評価すると同時に、チアの活動を心から応援しています。

ボランティア支援課

東日本大震災から7年が経ち、全国の学校において防災教育の重要性が叫ばれていますが、子どもたちが均一で

保健室から

学生健康診断が6月末に終了しました。「結果を聞くのが怖い」、「コレステロールってなんですか?」、「チューセイシボウが高いとやばいんですか?」これらは健診結果を返却する際、時々受ける質問です。自分の体といえども、血液や内臓など目に見えないものの働きは想像を超えています。とりあえず「やばいか、やばくないか」は知りたいものです。

健康診断の意義はスクリーニングです。一回の検査結果や数値で病気を特定するものではありません。

学べる場や、体験・研修等のシステムが整備されていないのが現状です。そうした問題の解決のため、平成29年度より『みやぎ観光復興支援センター』

との共同により、学生ボランティアが指導役となり、学生が中心となって本学が開発した「防災・減災教育体験プログラム」を実施し、全国の小・中・高等学校の生徒向けに情報の発信を行っています。

また、宮城県や全国各地で子どもや地域向けに、学生が主となって、本学オリジナルの減災・防災教育のプログラムイベントを開催しており、社会と連携した取組で学生のスキルアップが

留意すべき点や、もう少し詳しく調べたほうがよい領域があるかないかを知ることが目的です。一年に一回健診を受けて自身のからだの声を聴くことはとても大事です。

今年の健康診断受診率は92・1%でした。学年ごとに見ると1年生は96・

健康診断受けましたか?

2%でしたが、2年生は87・7%と下降しています。1年生は入学時に健診資料の配布および案内をしている効果があり高い受診率です。

一方、2年生以上の上級生になりますと、実習や就職活動等で健康診断証明書の発行を求められる学生さんは必

図られています(平成29年度:27活動、延べ244人活動)。

キャリアセンター

2018年3月卒の就職率が、文部科学省・厚生労働省から発表され、全国平均就職率は98・6%(前年同期比0・4ポイント増)、北海道・東北地区では、97・0%(前年同期比0・5ポイント増)でした。本学は98・2%(前年同期比0・4ポイント増)。(就職率=就職者数÷就職希望者×100%で算出)

就職率上昇は積極的採用の表れとして受けとめられ、2018年度卒の

要性を感じて受検しますが、日々忙しく時間が合わないと感じてしまったりするようです。

学業・部活サークル・バイト・ボランティア等、忙しいからこそ受けていたきたい学生健診なのにです。

関心を持つことが健康への第一歩です。またせっかく受けたのに健診結果を受け取りにこない学生さんがいます。毎年受けていくと4年次には4年間の健診結果一覧が手に入ります。大学時代の健康記録としてみていただけたら嬉しいですよ。元気に学生生活を過ごして社会へ巣立って行ってほしいと願っています。

採用見通しでも、業種別を大分類で見ると、ほとんどの業種で「増やす」が「減らす」を上回っていました。中でも、流通業、建設業の求人倍率が上昇しており、他に製造業、情報通信業、サービス業など、人手不足が顕著な業種が目立ちます。

また、目立った点として、具体的に企業で働くイメージづくりに役立つインターンシップ（就業体験）の導入が挙げられます。インターンシップ実施率は年々増加傾向にあり、従業員規模の大きい企業ほど実施率が高く、2018年卒における全国の企業インターンシップ実施率は38%を超えています。こうした背景もあり、学生には今まで以上に積極的に利用するように促してきました。

2019年3月卒（現4年生）の就職環境は、ほぼ前年と同水準で求人倍率1・88倍（前年比0・1ポイント上昇）と12年前の水準まで戻っています。そうした中、中小企業を中心に売り手市場を背景に本学の就職率は、第1回目のゼミ調査（8月末集計）で、前年同期比で上回っています。しかし、ここ数年大手企業、公務員希望者は増え、中小企業に比べ苦戦を余儀なくされています。

これから公務員や教員第一志望者の

結果も出始め、中には進路変更せざるを得ない学生も出てくる時期となります。キャリアセンターでは、このような状況に鑑み、一人でも多く希望分野に就職できるように、個人面談を強化して丁寧な支援を行っています。さらに、福祉・保健・医療分野を希望する学生の就職活動も8月から本格的にスタートしました。希望の事業所に就職するために、キャリアセンターには、夏休み期間中も履歴書の添削、模擬面接の申し込みが多く見られました。

一人でも多くの学生の要望に応えられるよう、受入態勢をより強化し、卒業までの5カ月間、スタッフ一同全力で支援していきます。

公務員受験対策室

公務員試験は、国家公務員試験、県庁・市役所の採用試験、保育士・警察官・消防官の採用試験など、どれも十倍〜五十倍の難関であり、百倍を超える試験もあります。一次試験では、教養・専門試験にわたり三十科目もの科目が問われます。

また、最近の人物重視の傾向から、二次試験では、個別面接だけではなく集団討論や体力検査が課せられます。様々な面から総合的な能力が試される試験です。公務員試験では、法学部・

経済学部・文学部など、大学の学部を横断する専門科目が課せられます。本学は、福祉系の大学であるため、学生の中には、特に法律系・経済系・一般知能系の問題を処理する基礎学力に不安を抱えている学生がいます。

公務員受験対策室では、学内講座を通じて、出題数が多く、独学では難しい科目を中心に講座を開講しています。教養科目では一般知能・自然科学・社会科学を、専門科目では、憲法・民法、経済原論・財政学を中心に公務員試験に必要な全科目の講座を展開しています。

公務員受験対策室では、公務員を志望する本学学生の合格に向けて、福祉の専門知識をベースに、経済系や法律系の幅広い専門知識を身に付け、社会に貢献できる、基礎学力の向上に努めています。

通信教育部

「仙台駅東口キャンパス」に移転して早や3年半、面談室も整備されるなど学習環境は年々向上しています。仙台駅から至近という好立地のキャンパスには週末、多くの社会人学生が来校し、社会福祉士や精神保健福祉士、学士の取得を目指して、あるいは心理学を学ぶため等理由は様々ですが、皆さ

んが熱心に学んでいます。Web上で受講するオンデマンド・スクーリングも年々増えており、ご自宅での学習も可能とあつて、北海道から沖縄まで約3千人の学生が在籍しております。

来年4月からの入学者については、現在大学院生を募集しており（来年2月14日締切）、学部生は来年1月から募集する予定です。詳しくは通信教育部事務室にお問い合わせいただくかホームページをご覧ください。

図書館

◆レポート作成するために
本年度初めての取組として、教員と連携し、『キャンパスライフ入門』、『情報処理実習』の受講者を対象に、レポート作成時の各種情報を取り扱うときのルール・マナーや情報検索のガイダンスを実施しています。

ガイダンス内容は、雑誌論文・新聞記事などの検索方法や著作権法の規定による参考文献、引用文献の記載方法を図書、雑誌論文、新聞記事データベース、ウェブ上の情報、図・写真に分けて説明しています。

このような情報の取り扱い方を理解することによって、大学4年間でのレポート作成はもとより、卒業論文作成

時も参考になることと思います。

図書館が教育活動へ直接参加することにより、より質の高い学修支援ができるよう、これからの様々な事業を計画・実施していきます。

国際交流センター

国際交流センターは、学生・教職員の国際交流を支援し、大学における多様性の育成や国際化に寄与するため、交流事業や海外研修の運営・支援を行っています。

【学術交流】海外協定校との人的交流プログラムによる相互受入・派遣（フィンランド）、社会福祉・ICT・ロボティクス・リハビリ・ヘルスケア分野での海外研究者との学術交流、外国人介護人材育成支援、本学関連社会福祉施設における研修の受入等を行っています。

【学生の海外研修・交換留学】夏期には、韓国・カナダ・オーストラリアでの研修に41名が参加。春期には、英国・スロベニア・中国で研修を実施予定です。9月からは保健看護学科の学生がフィンランドでの交換留学に挑戦しています。さらに、韓国・中国・ロシアとの交換留学も行っています。

生涯学習支援室

昨年11月から12回シリーズで毎月1回開催している「伊達政宗生誕四五〇年記念歴史講座」、今年5月から同様に8回シリーズで開催している「仙台藩と戊辰戦争一五〇年」は、各回のテーマの専門家を講師に迎え、毎回200名を超える方が受講する人気講座となりました。また、今年度の公開講座は前期20、後期20の講座を企画し、例年に比べて大幅に増やしています。

事務室を仙台駅東口キャンパスに移転し、講座の会場も同キャンパスにしたことで、多くの方が受講し易くなりました。本学ウェブサイトでの広報と仙台市内の市民センター、図書館等にチラシがごさいます。

本学の公開講座が、地域の皆さまが学習する機会として重要な役割を担っていることを自覚し、今後も本学の得意とする分野や市民のニーズに対応したテーマを探索し、講座を企画してまいります。

鉄道交流ステーション

ドクターイエロー（電気・軌道総合検測車）、マルチプルタイタンパー（道床突き固め機械）、ロータリー式ディーゼル機関車（雪かき車）など、日本の

安全で正確な鉄道輸送を支えている点検や保守の仕事を、力強くお手伝いしている車両や機械を紹介した企画展「鉄道のためにはたらく乗りもの」を開催しています。（11月2日まで）

これらの仕事は、旅客や貨物の列車が走らない夜間等の限られた時間帯に実施され、普段あまり見る機会はありません。いづくに現れるか分からない珍しい乗りものの、写真や映像、模型等が221点大集合しています。

地域共創推進室

地域共創という理念の下、大学と地域が持つ持っている資源を地域力に変え、地域が直面している課題の解決に取り組む一方、大学の研究・教育・社会貢献を活かし、大学と地域が共に発展できる環境の構築を目指すのが「地域共創推進室」です。

その担い手となっているのが大学指定団体「まごのてくらぶ」です。地域が有する様々な資源を活用した「地域間交流事業」を通じて、「開かれた大学づくり」への取組や、産学官とのネットワーク、多様な強みや特徴、潜在力等を集結し、地域のイノベーションの創出を推進しています。

地域の力を活かしつつ「自立支援」を前提に、町内会行事や、高齢者宅の

草むしり、雪かきなど、まさに痒いところに手が届く「孫の手」の役割を果たしています。

災害対策課

大学では、大学周辺地域の防災力強化を目的とした防災教育・訓練を行政機関や関連団体と協力して行っています。6月に毎年行っている「外国人住民を対象とした防災教育・訓練」を仙台国際観光協会等と共催で開催しました。炊き出しや消火訓練・濃煙体験、心肺蘇生・AED操作体験の訓練を本学生が中心となり、外国人住民の方へ分かりやすく指導しました。

8月には仙台市との協定に基づき「仙台駅周辺帰宅困難者訓練」を仙台駅東口キャンパスで初めて実施しました。学生が帰宅困難者（健常者・要援護者）役になり参加。職員も一次滞在所受入対応として訓練にあたりました。

後期においても学内・近隣地域・協定等に関わる訓練を実施する予定です。

入学センター

2019年度入学試験は、AO入試、スポーツ、文化AO入試、推薦入試、一般入試（A・B・C日程）、センター試験利用（前期・後期）に加えて、B日程にセンター試験プラス

方式の入試が実施されます。全体の募集定員は1,300名。

また、昨年実施の「給付型奨学金入試」については、今年是一般入試A日程内で実施されます。経済的支援を目的にした3科目型の入試で、2月2日、仙台会場を含む13会場で実施されます。気仙沼、宮古、鶴岡会場が新たに開設され受験機会が増えます。「給付型奨学金入試」の募集定員は30名。

出願についてはすべての入試で「インターネット出願」になります。ホームページから「募集要項」の入手、「受験料の併願割引」もあり、受験生にとって「簡単」、「便利」、「お得」な方法となります。

詳細は本学ホームページの「入学情報」でご確認ください。

犠牲者追悼法要

東日本大震災犠牲者追悼法要が3月9日、本学の法堂でしめやかに営まれました。発災から7年を前に、本学法人関連で犠牲となられた方は学部生4人、通信教育部生3人、東北福祉看護学校生2人を数え、計9人の名を挙げながら、尊い命を供養しました。

冒頭、仏教専修科の斉藤仙邦主任が「なぜ、その人が亡くなったのか問い

かけ続けるのが、残された者の責務だ」と語りました。

読経が続く中、参列者は犠牲者を偲び、焼香に臨みました。導師を務められた半崎義宗氏は「なぜ自分は生きているのかを考えると、何をすべきかに行き着く。自らを励まして何かをやる。今を生きたことが大切だ。それが供養になる」と語りかけるように話しました。

降誕会法要

釈尊（お釈迦様）の誕生日（4月8日）を祝う降誕会法要が5月16日、国見キャンパス1号館大教室で営まれました。リエゾンゼミの特別講義として、新入生と2、3年の編入生、教職員ら合わせて約1,500人が3回に分かれ参加しました。

大谷哲夫学長が導師を務め、法要の始



法話を述べる大谷学長

まりとともに、発災から7年2カ月余が経過した東日本大震災の犠牲者を悼み、参加者すべてが黙祷を捧げました。

学生を代表して大山紘佳さん（福祉行政）、佐藤真瑛さん（社会福祉）が献花。祭壇中央に立位した誕生仏に甘茶をかける灌沐（かんもく）では、岡悠太さん（福祉行政）、三田村尚範さん（産福マネ）が学生代表として厳粛な面持ちで茶を注ぎました。読経で全員が、学生手帳に掲載されている般若心経を読み上げました。

法話で大谷学長は「入学から約1カ月がたち、慣れましたか？ 本学は仏法の精神を受け継いで創設された大学で、2年後に145周年を迎え、150周年に向けてどう発展させていくかを考えています。建学の精神“行学一如”は実践と学びを融合させるという意味で、学生や卒業生が具現化しています。あいさつや親切な心、ぜひ皆さんが受け継いでくれることを願います」と話しました。

終了後には、教室の出口で甘茶がふるまわれ、学生が興味深げに体験しました。

なお、曹洞宗の宗門大学である本学は、降誕会のほかに9月に両祖忌、12月に成道会、2月に涅槃会と、年4回の法要を営んでいます。

両祖忌法要

日本曹洞宗の開祖・道元禪師とその教えを広めた瑩山禪師の両祖を偲ぶ両祖忌が9月19日、本学の法堂で営まれ、仏教専修科の学生、教職員らが参加しました。

大谷哲夫学長が導師を務め、鐘の音とともに入場。解説は川村昭光講師が担当しました。祭壇にお菓子とお茶が供えられ、宣疏読誦（せんしよきう）を桜井大文講師が朗読した後、読経の声が法堂を包み込みました。

法話で大谷学長は「道元禪師は月見が好きで、永平寺には月見の像があります。天はそのものです。月は虚心に姿を映し、あるがままであります。本学は2年後に145周年、その先に150周年を迎えます。どう発展す



導師を務める大谷学長

るのか一人ひとりが（心に）秘めてほしいと願います」と話しました。

芹沢銈介美術工芸館

心地よい芹沢デザイン

芹沢銈介美術工芸館では、平成30年4月9日から6月30日まで、特別展「芹沢銈介 暮らしに活きるデザイン」を開催しました。芹沢銈介は着物やのれん、壁掛から、扇子・うちわ、マッチラベルまで、暮らしに身近なものをつくり続けた作家です。そのデザインの魅力は和洋を問わず、生活を明るく潤す活力に満ちている点にあります。

本展では、現代に暮らしに私たちにも寄りそうような心地よいデザインを紹介。また、併せて芹沢が収集し、日ごろ使用していた世界各国の工芸品も交えて紹介しました。

3つの展示室では、「初期の作品と代表作」、「室内空間のデザイン」、「商業デザイン・立体デザイン」とテーマを設定し、初期作品には静岡市立芹沢銈介美術館から借用したハンドバッグや座布団など貴重な作品を並べました。代表作であるのれんや着物は、型絵染特有の繊細かつ大胆な模様が来館者を魅了していました。

染色家の印象が強い芹沢です



展示室風景

が、デザイナーとしての仕事も多岐にわたります。マッチやふきん、本の装幀、椅子や照明器具といった幅広い依頼に応え芹沢らしいデザインに仕上げました。また、ステンドグラス、緞帳といった立体作品を手掛けた下絵も展示。陶器を作る際は窯場に出向き、緞帳制作では織物工場を訪ねるなど、仕事に妥協を許さなかったエピソードには芹沢のこだわりが垣間見えました。

5月13日にはプロダクトデザイナーで日本民藝館館長の深澤直人氏を講師に迎え、講演会を開催しました。会場となった音楽堂けやきホールは、定員を超える聴講者の熱気であふれました。深澤氏の視点による芹沢デザインの魅力やご自身の創作について映像と写真を使いながらお話いただきました。また、講演会を初日とし、毎年開催している芹沢銈介生誕祭（5月13日〜19日）も開始。学生団体によるミニコンサートやお茶会を企画し、来館者を楽しませました。



生誕祭でCギター部のミニコンサート ギャラリートーク

学芸員によるギャラリートークは4月28日、5月26日、6月23日と各土曜日に開催。1時間程度の作品解説を興味深く聞き入る参加者の姿が目立ちました。会期中の毎週月・土曜日にはワークショップ「○○△□でデザイン！ ミニバッグを染めよう」を開催。形の組み合わせ方や色の配置をイメージしてバッグに染めていきます。型紙を使用するため年代を問わず参加しやすく、期間中470人の方が体験しました。併設展として「芹沢長介収集品紹介―そば猪口（ちよく）―」も同時開催。初代館長である芹沢長介が40年以上にわたって収集したそば猪口約400点が壮観に並びました。

仙台東口キャンパスに移転

なお、当館は6月30日を持ちまして、国見キャンパスでの活動を終了し、仙台東口キャンパスに移転することになりました。これまで30年にわたり、当館の活動にご理解を賜りましたこと、誠にありがとうございました。

今後は、利便性の高い場所です、より多くの方々に親しまれる美術館を目指す所存です。東口キャンパスでの再開は12月中旬を予定しております。皆さまには変わらぬご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

ゴルフ部男女全国大学対抗戦で2年連続優勝

個人の大会では高久選手が初V、金谷選手が世界2位に

第55回全国大学ゴルフ対抗戦・第41回全国女子大学ゴルフ対抗戦は6月14、15日に滋賀・日野ゴルフ倶楽部で行われ、男子が3年連続15度目、女子は2年連続8度目の優勝を飾りました。

た。男女優勝は2年連続7度目となりました。

◇男子

優勝 東北福祉大学

(2日間合計541ストローク)

2位 中部学院大学

(555ストローク)

3位 東海大学九州

(555ストローク)

最優秀選手 久保田皓也

(2日間合計132ストローク)

◇女子

優勝 東北福祉大学

(2日間合計585ストローク)

2位 日本大学

(590ストローク)

3位 同志社大学

(601ストローク)

男女とも5人出場、各

日上位4人のトーナルス

コアで順位を決定



2年連続の男女優勝を飾った選手たち

第55回日本女子学生選手権

2018年度(第72回)日本学生ゴルフ選手権と同(第55回)日本女子学生ゴルフ選手権最終日が8月24日、埼玉・飯能GC(男子パー71、女子パー72)で行われ、女子で本学の高久ゆうなさん(社福4年)が、唯一通算アンダーの1アンダー215で、2位に1打差をつけ、初優勝を飾りました。高久さんは「最終日は緊張し、ヒヤヒヤでした。初日、2日目とラインが読めて、パターが入ったのが勝因です」と安堵の笑みを浮かべました。なお、6位タイには向井七海さん(社福1年)が入りました。また、男子は片岡尚之さん、久保田皓也さんの2人が3位タイでした。



女子学生王者の高久さん

世界アマチュア選手権



ゴルフの日本代表選手として本学の金谷拓実さん(社福2年)が9月7日、ア

イルランドのカートンハウス オメーラコースで開催された「世界アマチュアチーム選手権」最終日に9バーディー、3ボギーの67をマークし、個人戦2位に入る活躍を見せました。

通算22アンダーは優勝したスペインのアレハンドロ・デル・レイ選手にわずか1打及ばずでした。チーム戦ではデンマークが優勝し、15位と振るわなかった日本勢にあつて、一人気を吐いたのが金谷さんでした。

昨年10月のプロツアー「日本オープン」では、優勝した本学卒業生プロの池田勇太選手(平19年度社福卒)に次ぐ2位に入り、2度目のローアマチュアに輝いた実力者。世界を舞台に堂々たるプレーは、世界を夢見る金谷さんにとって、貴重な体験になりました。

女子駅伝チーム12年連続の全国切符

エース須藤ひかる選手は11月にオランダ派遣決定

秩父宮杯第50回全日本大学駅伝対校選手権大会東北地区代表選考会兼第36回全日本大学女子駅伝対校選手権大会東北地区代表選考会は9月24日、北上総合運動公園で代表選考会が行われました。

優勝した女子は10月28日に行われる杜の都駅伝に12年連続16度目の出場を決めました。昨年は16位でしたが、今年は一ケタ順位を目指し、チーム全体の士気は上がっています。

優勝 東北福祉大学 1時間50分16秒

Aチーム

- | | |
|----------|--------------|
| 1区 須藤ひかる | 17分29秒(区間1位) |
| 2区 五十嵐徳子 | 14分57秒(区間3位) |
| 3区 尾関真衣 | 22分48秒(区間3位) |
| Bチーム | |
| 1区 古川恵里 | 18分05秒(区間2位) |
| 2区 三浦佳奈 | 14分45秒(区間2位) |
| 3区 小高夏綺 | 22分12秒(区間1位) |
- なお、男子は総合3位でした。

須藤選手 学生ハーフ2位

第21回日本学生女子ハーフマラソン選手権(21・0975km)が3月18日、鳥根県松江市のまつえレディースハーフマラソンコースで行われ、須藤ひかる選手(保健看護1年)が1時間12分41秒で2位に入りました。また、古川恵理選手(教育2年)は足の故障もあり、10km過ぎで無念の途中棄権となりました。

ハーフマラソン初挑戦の須藤選手は、1位にわずか7秒差。同時開催で実業団の招待選手も参加した、第39回まつえレディースハーフマラソン



2位の須藤選手(中央)

ンでも5位に入る快走でした。また、9月の日本インカレ10、000mで5位入賞を果たし「セブンヒルズロードレース15km(オランダ・ナイメーヘン、11月開催)への派遣が決定しました。(学年は3月時点)【日本学生女子ハーフマラソン選手権結果(上位及び本学関連選手のみ)】

1位 水口瞳(大阪学院大学3年)
1時間12分34秒

2位 須藤ひかる(東北福祉大学1年)
1時間12分41秒

3位 小汲紋加(玉川大学1年)
1時間12分43秒

― 古川恵理(東北福祉大学2年)途中棄権

女子ソフトボールが3位に

第53回全日本大学女子ソフトボール選手権大会は9月1日から3日まで石川県金沢市専光寺ソフトボール場で行われ、本学は優勝した2009年以来の準決勝に進出し、3位となりました。

▽1回戦(9月1日)

東北福祉大学 7-0 福岡大学

(5回コールド)

▽2回戦(9月2日)

東北福祉大学 6-0 奈良学園大学

▽準々決勝

東北福祉大学 1-0 武庫川女子大学

▽準決勝(9月3日)

東北福祉大学 0-3 日本体育大学

舟山 健一監督の話 3位という結果は、残念ながら目標としていた「日本一」には届きませんでした。自分たちの力を出しきる試合を行うことができました。この悔しい思いを受け継ぎ、今後の活動に活かしていきたいです。多くの皆様のご支援をありがとうございました。



9年ぶりに準決勝進出の選手

キルギスタディツアー

情報福祉マネジメント学科の生田目学文教授らによるキルギス共和国スタディツアーが8月5日から12日まで初開催され、学生3人を含めた7人が参加しました。

ロシア連邦ノボシビルスク経由で、首都のビシケクに到着後、JICAの青年海外協力隊員として派遣されている本学OG2人（堀江真琴さん・平24年度情報福祉卒、岩崎未来さん・平25年度子ども教育卒）と合流しました。

2人が派遣されている保育園を訪問し、子どもたちと紙ヒコキ、紙風船などを通じて触れ合いを楽しんだほか、景勝地のイシクル湖にも訪れ、濃密な8日間を過ごしました。

生田目教授は「（学生が）現地で自



岩崎さん（左下）、堀江さん（左上）、OGとも合流

分の目で見て、耳で聞いて、体で感じることが建学の精神「行学一如」の実践になる」と成果を話しました。

ラトビアコーチに金先生

本学剣道部の部長を務める金義信特任准教授が8月24日、ラトビア共和国剣道連盟のウラジミール・キンゾリス会長から同国ナショナルチームの剣道コーチ就任を要請され、9月1日に就任しました。

バルト海に面した北東ヨーロッパの同国。剣道7段、短剣道8段の金先生



金先生を囲むキンゾリス会長（左）とマキシム選手

は2009年8月に講師として同国に招かれ、約2千人の観衆の前で日本剣道形や剣道・短剣道のデモンストラーションを行った経歴の持ち主です。

9月7日に本学の道場「武徳館」で開かれる短剣道の昇段試験に臨むため、キンゾリス会長とガリアスカロフ・マキシム選手の2人が来仙。9年前にも金先生から指導を受け、メキメキ腕を上げた2人。審査員を前に技と姿勢の審査を受け、見事、キンゾリス会長の5段、マキシム選手は4段への昇段を果たしました。

2人を見守った金先生は「成長している。ナショナルチームではキンゾリス会長が監督に、マキシム選手は選手として出場する。（コーチに就任して）短剣道の普及・発展に貢献したい。2人には競技を通じて、日本独特の人づくりを学んでほしい。術ではない道を」と目を細めて、抱負を話しました。

キンゾリス会長は「金先生は技術、知識ともに素晴らしい。会うたびに学べる」と語り、マキシム選手は「私の尊敬する先生だ」と全幅の信頼を寄せていました。

まごのつぐみ総会

平成30年度「まごのつぐみ」総会が6月16日、本学ステーションキャンパス館で開催されました。当くらぶの山口政人副支援委員長が「人との交わりが発展につながる」と話し、金義信部長が「学生は地域の課題を自らのものとして取り組んでほしい」と述べ、来賓を代表して国見地区連合町内会の吉澤秀晃会長があいさつに立ちました。

今年度のまごのつぐみは新入生31人が加わり、総勢69人で活動します。この日は学生のほか、来賓を含め約60人が参加。副委員長森終弥君（福心3年）が「人間力の向上に努めたい」と話しました。

議題は前年度の支援活動紹介に続いて、今年度の活動方針と事業計画を説明。最後に今年度の幹部と新入生が紹介されました。



自己紹介をする新入生

EVENTS NEWS 1

文化会リーダー研修会

学生代表ら約80人参加

文化会に所属するサークルのリーダー研修会が3月6日と8日の2日間、323教室で開催されました。6日は37サークルの学生代表、副代表ら約80人が参加し、4つの研修が行われました。

内容は①文化会についての説明から予算算定基準、助成金の説明②草間吉夫特任教授の講義③「リーダーはどうあるべきか」のディスカッション④AED講習でした。

④は災害対策課の職員・結城卓さんが説明役を務め「電気ショックは必要な人にしかならない。その判断は機械がする」と、参加者の不安を和らげました。

8日は会計講義が行われ、学生支援課から助成金の受け取りについての説明がなされました。



AEDを扱うスタッフと学生たち

吹奏楽部

スプリングコンサート

フィギュアスケートの羽生結弦選手が仙台市内で祝賀パレードに臨んだ4月22日、2018本学吹奏楽部のスプリングコンサートが音楽堂けやきホールで開催されました。テーマは「新風〜TFU New Sound〜」で文字通り、部員たちが新しい風を吹かす意気込みで、聴衆約250人を楽しませました。

2部構成の1部は、2018年度全日本吹奏楽コンクールの課題曲ⅡとⅠに続いて、仙台フィルハーモニー管弦楽団首席オーボエ奏者の西沢澄博氏が「AUTUMN SOLILOQUY」を、ソロを交えて演奏。繊細な音色を響かせました。

2部では、部員がカラフルなTシャツ姿で登場し、鈴木楽士さん（社福3年）の指揮で、カーペンターズのヒットメドレーなど4曲を披露しました。



西沢氏のオーボエソロ演奏

第53回仙台市社会福祉大会

Team ZEROに感謝状

学生ボランティア団体「地域安全安心ボランティアTeam ZERO」が9月5日、第53回仙台市社会福祉大会で仙台市社会福祉協議会会長から感謝状を贈呈されました。

Team ZEROは地域の見回り活動として、交通安全運動やナイトパトロール等を実施し、地域の安全安心づくりに貢献しています。また、子ども向けの防犯教室や警察と連携したイベントの企画・運営にも積極的に携わり、地域との交流も深めています。

受賞した学生代表の貝和大毅さん（社福3年）は「今まで取り組んできた活動を評価していたことは大変光栄であり、今回の受賞を糧に今後も地域と連携した活動を行っていきたい」と語りました。



後輩に挟まれ笑顔の貝和さん（中央）

CAMPUS NEWS 4

2017年度Bティーチャー

教育学部の和准教授に栄冠

東北福祉大学は、2017年度のベストティーチャーに教育学部の和史朗（にぎ・しろう）准教授を選び、7月4日の教授会で大谷哲夫学長から表彰状と副賞が贈られました。

和准教授が担当する「肢体不自由者教育論」が、専門教育講義を対象にした授業評価の授業の質項目で高い評価を得たことによります。受賞に「熱心に取り組んでくれる学生に感謝したい。授業は学生と一緒につくるので」と話し、さらに「現場に役立つ知識を教え、高い技術を持って指導できる人材を育てたい」と意欲を語りました。

本学は教育の質の向上や授業改善に活用するため、全授業についての授業評価を実施。2015年度からは、学生による授業評価アンケートに基づき、ベストティーチャーを選出しています。



表彰を受ける和准教授

ボランティアの模範表彰

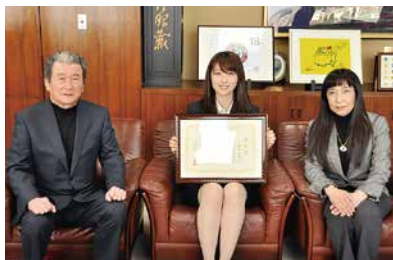
今春社教卒の横山さん

社会教育学科4年の横山里末さんが3月19日、本学学長室で国立青少年教育振興機構からボランティアの模範として表彰されました。全国28大学、47人の中の一人に選ばれ、本学からは2年連続の受賞です。

同機構は自然体験や集団宿泊活動の機会を提供し、事業の運営や指導の一端を担うのが学生で、横山さんは1年次から4年間、国立花山青少年自然の家の活動に参加しました。

所長の松村純子氏は「大変よくやっていただいた。特に3年次は20回以上も参加してくれ、感謝している」と、授賞の挨拶を述べました。同席した大竹榮副学長は「素晴らしいことだ。これからも人間関係を大事にしてほしい」と激励しました。

4月から宮城県内の児童養護施設に勤務する横山さん。「たくさんの経験を生かしたい」と笑顔で話しました。（学年は表彰時）



左から大竹副学長、横山さん、松村所長

うちわを作ろう

人気のワークショップ

東北福祉大学仙台駅東口キャンパスに移転する芹沢銈介美術工芸館では8月5、6の両日、国見キャンパス332教室で夏のワークショップ「うちわを作ろう」を開催しました。

時間帯は両日とも①10・30②正午③13・30の3回で、定員は各16人。今年で12年目になりますが、予約制を採り入れたのは初めてで、両日とも28人が参加しました。

多い時には1時間待ちもしばしば発生する人気イベント。今年で6年連続参加という一般ファンの方は、自身のツイッターで歴代の作品を公開する熱の入れようでした。

博物館実習の履修者や工芸館クラブ「風の会」の学生による懇切丁寧な指導が、参加者から毎年好評を博しているのもイベントの特徴です。



大人も子どもも楽しむうちわ作り

健康・体力づくり事業財団から表彰 齋藤昌宏准教授と鈴木玲子特任教授

本学の齋藤昌宏准教授（健康科学部 医療経営管理学科）と鈴木玲子特任准教授（社会貢献・地域連携センター）が9月13日、東京のハイアットトリージェンシー東京で開催された「公益財団法人 健康・体力づくり事業財団40周年記念式典」で、同財団理事長表彰（個人の部）を受賞しました。

同表彰は、健康運動指導士として、多年にわたり国民の健康・体力の保持増進及び疾病の予防のため活動を通



受賞した齋藤先生（右）と鈴木先生

じ、健康長寿の実現に尽力した功績が特に顕著と認められる者に贈られるものです。今回は、両教員がそれぞれに取り組んできた、健康づくりや介護予防のための運動の普及啓発、被災地の健康運動支援、健康づくりの運動指導者養成などの活動が評価され、晴れて受賞の運びとなりました。受賞者は全国で38人です。

本学は今年度より健康運動実践指導者養成校の認定を受け、医療経営管理学科・産業福祉マネジメント学科・情報福祉マネジメント学科で健康づくりのための運動の専門的知識・実技能力を備えた人材養成に取り組んでおり、両教員はその指導にあたっています。

受賞に際し、両教員は「非常に光栄であるとともに、今までご指導いただいた方々、かわりのあった皆さまに感謝申し上げます。受賞を励みとして、今後も学生の教育や社会貢献活動に邁進していきます」と気持ちを新たにしました。

なお、式典後には、寛仁親王妃信子殿下による記念講演、記念祝賀会が行われました。

2018東日本大震災復興祈念演奏活動 佐渡 裕氏が音楽堂で指揮を執る

世界的に著名な指揮者・佐渡裕氏が率いるスーパークイズ・オーケストラの2018東日本大震災復興祈念演奏活動「こころのビタミンプロジェクト in 仙台」が3月31日、本学音楽堂（やきホール）で開催されました。主催はこころのビタミン実行委員会と兵庫県立芸術文化センターで、本学が共催。仙台市をはじめ、東北福祉大学宮城県同窓会などが後援し、市民ら約650人が参加しました。

スーパークイズ・オーケストラは佐渡氏の指導を受け、質の高い演奏と純粋な音楽に定評があり、2011年の東日本大震災から毎年、被災地を訪ねています。また、心の復興を願う、こころのビタミンである音楽を届けるのがビタミンプロジェクトです。

初めに、佐渡氏が「素晴らしい音響



演奏を引き出す佐渡氏

の中で演奏できることに感謝しています」と挨拶を述べ、芥川也寸志作曲の「トリプティック 第1楽章」、2曲目レハールの「メリー・ウイドウ メドレー」と見事な演奏を引き出しました。途中、本学混声合唱団が加わって、復興応援ソング「花は咲く」と童謡「ふるさと」を指揮。最後はバッハの「シャコンヌ」で、ジャンプするなど躍動感あふれる指揮姿を見せました。

一行はつかの間の休息をとると、疲れも見せず次の訪問先である岩手県に向かいました。素晴らしい演奏をありがとうございました。



本学混声合唱団（前列）を交え記念撮影



ゴルフ部男子の金谷拓実さん（社福2年）が10月7日、シンガポールのセントーサ GC（パー70）で行われた「アジア・パシフィックアマチュア選手権」最終日で、7バーディー、2ボギーの65をマークし、2位に2打差をつける通算13アンダーの267で、逆転優勝を飾りました。

この結果、四大メジャー大会のうち来年4月に行われるゴルフの祭典、米ツアーのマスターズ選手権と同7月の全英オープン選手権への出場切符2つを獲得しました。

マスターズは本学の卒業生で、米ツアーで活躍する男子プロゴルファーの松山英樹選手（平25年度社福卒）が大学1年時に、このアジア選手権を制して、出場しました。本番で27位に入り、ローアマチュアを獲得して、以後の飛躍のきっかけになりました。また、松山選手は2年時もアジア選手権を制覇しました。

それだけに学生時代の松山選手同様、将来、世界の大舞台を夢見る金谷さんにとって、願ってもない優勝になりました。

（関連記事30面）

表紙は表彰式で優勝杯を手にする金谷さん
左はアイアンショットを放つ金谷さん
上はプレスルームで喜びを語る